

[A.O.Z] EPISODE GUIDE

「アドバンス・オブ・Z」の全書を年代、地域、主要機体などのデータで解説!
A.O.Zの全てがわかる公式エピソードデータ集!!

BEFORE A.O.Z

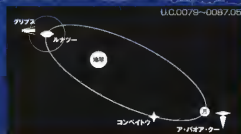
一年戦争終結〜A.O.Z前の宇宙世紀

宇宙世紀0079年1月3日に勃発したジオン公国の独立戦争。俗に言う「一年戦争」はその名のとおり、開戦からほぼ1年後の0080年1月11日の月のグラナダで行なわれた終戦協定によって事実上終結した。この大戦で人間の総人口の半分が失われ、地球圏各地に大きな被害が残された。戦後復興は困難が予想され、地球連邦政府の最優先事項となった。サイード1、2、4、5のスペースコロニー群は壊滅状態であり、再び人が住めるようになったのは修復と再建は大きな事業であった。

連邦政府は0082年5月、修復可能なスペースコロニーの再生計画「第2次コロニー再生計画」を実施。本格的な復興に乗り出した。万連邦軍は0081年10月に連邦議会が可決された「連邦軍再建計画」に従い、大戦で失われた戦力の補充を行なうべく、地球圏各地に潜伏するジオン軍残党などの脅威も解決を待たず、戦力の補充は連邦軍の威信を守るためにも急務であった。人々の希望や思惑を飲み込みながら、戦後復興もようやく軌道に乗っていった。

そして、戦後復興もようやく軌道に乗っていった。0083年に発生した「地球連邦に潜伏しているジオン軍残党の中で最大の勢力を誇るデラー・ス・フリー」が決定「デラーズ紛争」が勃発した。この紛争は、謀略者であるエース・エネスターズによって何層にも張り巡らされた陰謀は、ひとつひとつ連邦軍の真実を暴く。遂には地球への「コロニー落とし」を成功させる。

「デラーズ紛争」が連邦政府も連邦軍に与えた衝撃は大きかった。ジオン軍残党が看過できない脅威であることが再確認され、早急な対策が求められた。そうした状況に押しつけられ、ジオン・フリーハンズ軍の残党勢力を主任を務める特殊部隊「タイタースT3部隊」は編成された。タイタースの編成により連邦軍の内部で、事実上変化が起る始めている……



コンバイトウ (U.C.0080〜)

官軍軍によって占領されたソロモンは、「コンバイトウ」と呼ばれる連邦軍の宇宙軍艦として運用されるようになる。0083年には4年ぶりに占領される連邦軍艦隊式の兵器に選ばれ、その艦隊式をデラーズ・フリー軍に奪取され、戦艦として運用された。

ソロモン (〜U.C.0079)

ソロモンは、ジオン公国の宇宙軍艦として戦後復興用の小規模な改造を経て運用された。一年戦争の戦中にLS艦船に転換し、本艦隊ラインの一式を揃えていた。大規模な運用によって占領され、アババアーク戦後の戦艦として運用された。

ソロモンの変遷

A.O.Z キャラクター紹介 CHARACTERS

エウーゴ



ガブリエル・ソラ

一年戦争からのベテランパイロット。戦時中は地球圏を中心に連邦軍に對する特殊活動を行っており、T3部隊とは無縁となく戦火を交えている。直感を磨くためにエウーゴへの参加という前作の決断をする。

カザン・コーリン



ガブリエル・ソラ大尉とは一年戦争から同僚である。ジオン軍の戦艦をソラとともに撃破していた。T3部隊との戦いで先見を失うが、ソラは行動を共にしてエウーゴへと参加する。



ビート・リトル

一年戦争からのベテランパイロット。戦時中は地球圏を中心に連邦軍に對する特殊活動を行っており、T3部隊とは無縁となく戦火を交えている。直感を磨くためにエウーゴへの参加という前作の決断をする。



ヘドリック・スミス

一年戦争からのベテランパイロット。戦時中は地球圏を中心に連邦軍に對する特殊活動を行っており、T3部隊とは無縁となく戦火を交えている。直感を磨くためにエウーゴへの参加という前作の決断をする。



オート・ペダルセン

一年戦争からのベテランパイロット。戦時中は地球圏を中心に連邦軍に對する特殊活動を行っており、T3部隊とは無縁となく戦火を交えている。直感を磨くためにエウーゴへの参加という前作の決断をする。



ウェン・マフィ

一年戦争からのベテランパイロット。戦時中は地球圏を中心に連邦軍に對する特殊活動を行っており、T3部隊とは無縁となく戦火を交えている。直感を磨くためにエウーゴへの参加という前作の決断をする。



オート・エープリル

一年戦争からのベテランパイロット。戦時中は地球圏を中心に連邦軍に對する特殊活動を行っており、T3部隊とは無縁となく戦火を交えている。直感を磨くためにエウーゴへの参加という前作の決断をする。



エリカ・ド・ハント

一年戦争からのベテランパイロット。戦時中は地球圏を中心に連邦軍に對する特殊活動を行っており、T3部隊とは無縁となく戦火を交えている。直感を磨くためにエウーゴへの参加という前作の決断をする。



カル・マンバ

一年戦争からのベテランパイロット。戦時中は地球圏を中心に連邦軍に對する特殊活動を行っており、T3部隊とは無縁となく戦火を交えている。直感を磨くためにエウーゴへの参加という前作の決断をする。

■T3部隊
「タイタース・ファースト・チーム」通称「T3部隊」は、タイタース月の次世代機開発のために設立されたテスト部隊である。試作・実験MSを機體試験や実戦において運用し、機體開発のためのデータ収集をすることを目的としている。最新MSが配備されると言えは聞こえはいいが、実際は機體テストも不十分な試作機を実験で使用しなければならぬ危険と隣り合わせの部隊であった。



オート・エープリル



エリカ・ド・ハント



カル・マンバ

EPISODE 1 2545年 宇宙世紀



RX-121

ガンダムTR-1【ヘイズル】

ジム、クエスとベースは、高機動化パーツを追加して開発されたガンダムタイプの試作機。ティターンズ用の次世代機。見計るであるTR計画の要となる機体である。

Pilot:
クエス・
マーフィー大尉

Captain:
オジュー・
ペデルセン大佐

アレキサンドリア星 宇宙道洋城 アスワン

コンバット型機に転換されているT3部隊の母艦であり、マーフィー大尉率いるT3部隊の艦長となる。アスワンの艦長は、T3部隊の司令官を兼任するオジュー・ペデルセン大佐。



RGM-79SR

ジム・スナイパーⅡ

ジム改高機動型を改造した高機動型。高機動型を改造したハイパーセッターに高機動型を改造したハイパーセッターなど、高機動型のパーツを追加して改造された。高機動型である。

Pilot:
ガーム・
マツバラ中尉

Pilot:
エリアルド・
ハンゾウ中尉

RGM-79CR

ジム改高機動型

ジム改高機動型は、ジム改をベースとした高機動型。高機動型を改造したハイパーセッターなど、高機動型のパーツを追加して改造された。高機動型である。

EPISODE 2 2546年 宇宙世紀



RX-121

ガンダムTR-1

【ヘイズル】高機動型

フィールド・ブースターを3機搭載したハイザックの機体。高機動型。高機動型を改造したハイパーセッターなど、高機動型のパーツを追加して改造された。高機動型である。

Pilot:
オードリー・
エイプリル中尉

Pilot:
ガーム・
マツバラ中尉

YRMS-106-BL-85X

ハイザックTR-2【ビグウィグ】

MSが最も近い高機動型のビーム・キャノンとそれを格闘する高機動型。高機動型を改造したハイパーセッターなど、高機動型のパーツを追加して改造された。高機動型である。

Pilot:
エリアルド・
ハンゾウ中尉

Pilot:
クエス・
マーフィー大尉

RX-121-2

ガンダムTR-1

【ヘイズル】2号機

アスワンに配備されていたハイザックのハイザック。高機動型。高機動型を改造したハイパーセッターなど、高機動型のパーツを追加して改造された。高機動型である。

YRMS-106

ハイザック

先行量産型

アナハイム・エレクトロニクス社が、MSメーカーとして11月1日に設立された。高機動型を改造したハイパーセッターなど、高機動型のパーツを追加して改造された。高機動型である。

EPISODE 1

EPISODE DATA

- 年代:U.C.0084年12月
- 地域:L5・コンバット宮城
- 主要機体:RX-121 ガンダムTR-1【ヘイズル】
- 主な事象:
エリアルド、ティターンズ入隊
エリアルド、T3部隊配属

0084年12月に主人公のエリアルドがティターンズに入隊し、T3部隊の一員として初出撃するまでのエピソードが描かれている。エリアルドが配属されたT3部隊ブラックオーダー小隊（マーフィー小隊）の小隊長クエス・マーフィー大尉とガンダムTR-1【ヘイズル】の任務的な強さを目撃したエリアルドは、ガンダムとともに戦える喜びを噛みしめる。



ガンダムTR-1【ヘイズル】が、ジオン軍機を撃破する。連邦軍兵士にとって、今なおガンダムは神々と崇められる存在だ。

EPISODE 2

EPISODE DATA

- 年代:U.C.0085年7-8月
- 地域:L5・サイド1宮城
- 主要機体:YRMS-106-BL-85X ハイザックTR-2【ビグウィグ】
- 主な事象:
ハイザック先行量産型の配備
オードリー・ヘイズル高機動型で出撃
TR-2【ビグウィグ】の試験試射開始
サイド1・30バノナに対する軍事行動への後方支援

先行量産型のハイザックや、TR-2【ビグウィグ】の配備によりMSテスト部隊であるマーフィー小隊の本格的な活動が開始される。しかし、彼らの任務は実戦でのMSテスト運用という危険なものであり、常に死と隣り合わせの任務であった。そんな中、バスク・オム大佐が指揮するサイド1での作戦行動の最中、任務の命令がマーフィー小隊に下される。



TR-2【ビグウィグ】で出撃するガーム・マツバラは、高機動型で動くドッグファイトには不利なビグウィグを守るため、エリアルドに支援要請としてサポートを行う。

EPISODE 3 MECHANICAL



Pilot:
フックス
マーフィ大尉

**RX-121-1
ガンダムTR-1**
「ヘイズル改」
ジオン軍機との戦戦
で変化したヘイズルを
コックピットに装甲部
で修理。改修した機体
機体背面に追加された
機体の機体上にある
型式番号は「RX-121-
1」へと改められた。



Pilot:
ウェスト
マーフィ大尉

**NRX-044[R]
試作アッシマー
TR-3[キール]**
引き出されたテスト用
に製作された機体。ベ
ーは、地上用の可変
MAとして開発されて
いたが、まだ未完成
だったためキールは
宇宙用の機体となった。



Pilot:
カザン・
ランゾ

**MS-14A
グバグバ**
[シュトゥツァー]
ゲルグに機体バ
ックを組んだ改造機。高
性能化する最悪の
MSに列する。ため、
ジオン軍機が知ら
れた機体として追加
された。ランゾの
カスタム機である。



Pilot:
ガブリエル・
ランゾ

**MS-09R
リック・ドム**
[シュトゥツァー]
ジオン軍機がMS-
09Rのシステムで考
案パーツを組んで後
方に完成させた改造機
機体が大幅に強化さ
れた。ガブリエル・
ランゾが主に使用した
機体である。

EPISODE 3

EPISODE DATA

■年代 U.C.0085年9~10月
■地域 L5:コンベイト湾
■主要機体 NRX-044[R] 試作アッシマーTR-3[キール]
■主な事件
ガンダムTR-1[ヘイズル]、ジオン軍機との戦戦
で大破
TR-3[キール]の配備。運用テスト開始
マーフィ大尉、ジオン軍機部隊を撃破
修理、改修を受けたガンダムTR-1[ヘイズル改]が
配備

30バッチ事件以降、活性化する地球連邦政府に
対する抗議行動。それに呼応するようにジオン軍機
の活動も頻発していた。そうした状況の中、ジオン
軍機との戦戦でヘイズルが大破してしまふ。マー
フィー大尉はTR-3[キール]へと機体を乗り換え、
任務を続ける。そして2か月後、修理、改修を受けた
ヘイズルがヘイズル改として再配備される。



MA配備のTR-3[キール]につづき、ジオン軍機部隊とヘイズ
ル改、キールの戦戦によりマーフィ大尉はジオン軍機機
隊の戦戦に成功する。

EPISODE 4 MECHANICAL REPORT



Pilot:
エリアルド・
ハンター大尉

**NRX-044
アッシマー
TR-3[キール]**
宇宙でのテストを終え
重力下では改良され
たTR-3[キール]。す
でにテストが行われ
ていた連邦軍のアッシ
マーによる実験データ
も、機体各部に改良
が加えられている。



Pilot:
マキシム・
グナー大尉

**RX-107[R]セットは、
AEZがRMS-105バ
ザックの機体として
開発した試作MAである。
そのスベットの機体
をディテールに
追加された。TR-
4のコンプレックス
として使用
された。**



Pilot:
マキシム・
グナー大尉

**RMS-117
ガルフ**
バザックの機体
を改良したRMS-117
ガルフの機体はバ
ザックを改良し、さらに
両腕に追加ユニットを
追加した機体として改良
されている。



Pilot:
マキシム・
グナー大尉

**RX-107 TR-4
[タンディライアン]**
大気圏突入用として
開発されたTR-4
[タンディライアン]は
大気圏突入用機→MA
形態→MS形態と状況
に合わせて3つの形態
への変形を行うこと
のできる機体だ。

EPISODE 4

EPISODE DATA

■年代 U.C.0085年10月~0086年2月
■地域 地球圏軌道上、アフリカ大陸など
■主要機体 RX-107 TR-4[タンディライアン]
■主な事件
エリアルド、TR-3[キール]の地上テストのため
地球へ
カール、TR-4[タンディライアン]で大気圏突入テ
スト
TR-3、TR-4、ジオン軍機とのMS部隊と戦戦
マーフィー大尉、グナー大尉がエアーゴンドラを
運用

TR-3[キール]の地上テストのためアフリカ大陸
のバルツーム基地に降り立つエリアルド。しかし、そ
こで連邦軍一般部隊が持つディテールズに対する事
態を招くことになる。再び宇宙へと戻ったエリアル
ドたちのもとに、マーフィー大尉の元隊友マキシム・
グナー大尉が配備される。しかし、グナーはディテ
ールズを発見しエアーゴンドラを運用してしまふ……。



TR-4[タンディライアン]は、大気圏突入機として機体にも改良が
加えられている。MS形態などさまざまな形状に機体を変化させて機体
の運用が行えるようになっている。

EPISODE 5 MECHANICAL REPORT



Pilot:
カール・マツバウ中尉

**RX-121-2A
ガンダムTR-1
[ファイバー]**
ヘイズルが機体へイズル
改と稱し機体は分岐に位置し
たため、高機動化パーツを
追加装備したヘイズルの
機体。最終点で最も完
成されたヘイズルの戦術
兵器と見える。



Pilot:
ウーゴ・マフィア大尉

**ORX-005
ギャフランTR-5
[ファイバー]**
TR-5 [ファイバー] のコアMSとなる
ギャフランの改称機。機体各部が
13層構造に増へて変更されている。
パイプの代わり、管状にシ
ールド・ブースターが装備されている。



Pilot:
ウーゴ・マフィア大尉

**ORX-005
ギャフランTR-5
[ファイバー]**

「機体改造による高機動化」
を機体コンセプトとした改機MA
TRシリーズ中、最も巨大な
機体であり、そのコアMS
の「ファイバー」は後
にマフィア大尉
の戦術兵器となる。



**MSA-003
ネモ・カノン**

エウゴが戦線に投入したそのコア
シールド機、ヘイズルのシールド・ブ
ースターを押し、メガ粒子砲まで内蔵しているロ
ングシールド・ブースターを装備している。

EPISODE 5

EPISODE DATA

- 年代: U.C.0096年3月~0098年2月
- 地域: ユーラシア大陸北部、カムチャッカ半島、L5-コンベイトウ領域など
- 主要機体: ORX-005 ギャフランTR-5 [ファイバー]
- 主な事象:
TR-5 [ファイバー] によるカムチャッカ基地制圧作戦
ロサ・ギンティア攻め
コンベイトウ攻防戦
コロニーレーザー奪取戦

緊張が高まっていたティターンズとエウゴは、ついに武力紛争に突入する。マフィア大尉も美穂部隊へと加入され、戦線部隊として本格的に作戦に従事していた。紛争の激化は戦況をさらに悪化させ、マフィア大尉も各地を転戦することになる。そして、戦いは最終局面を迎え、コロニーレーザーに改造されたグリプス2を巡る戦いが始まる。



TR-5 [ファイバー] のコアMSであるファイバーは、ギャフランにフルトビキを改造したカスタム機である。その戦闘力は先行機体兵器の中で突出した存在であった。

EPISODE 6 MECHANICAL REPORT



Pilot:
エリアルド・ハンター中尉

**RX-124
ガンダムTR-6
[アバドスト・
ウィンドウォート]**

エリアルドが改造した版
TR-6のこの機体は、高
機動戦闘用の機体パー
ツが追加されており、
TR-6の各戦闘機の中
で最も機動性が高いと
も言われる機体である。



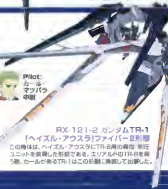
Pilot:
ガブリエル・ゾラ

**MSA-009
ショットツァー
[ショットツァー]**

エウゴが導入したMSのアク
シアスに高機動化パーツを
追加した改造形態。ゾラたち
がシオン軍機体には使用し
ていた改造機ノヴァが機
体に変化している。



**RX-124
ガンダムTR-6
[ウィンドウォート]**
TR-6のコアMSである
この機体を中心に、
改造された機体パー
ツを追加すること、
TR-6の各戦闘機の中
で最も機動性が高いと
も言われる機体である。



Pilot:
カール・マツバウ中尉

**RX-121-2 Gundam TR-1
[ヘイズル・アウスラ]ファイバーB形**
この機体は、ヘイズル・アウスラにTR-6用の機体。修正
ユニットを装備した形態である。エリアルドのTR-6を
ついで、カールが乗るTR-1はこの形態に改造して出陣した。

EPISODE 6

EPISODE DATA

- 年代: U.C.0088年2月
- 地域: グリプス領域
- 主要機体: RX-124 ガンダムTR-6 [ウィンドウォート]
- 主な事象:
エリアルド、ガンダムTR-6で出陣
アスワン撃沈
エリアルド、ガブリエル・ゾラとともにガンダムTR-6を撃沈

コロニーレーザーを巡るティターンズ、エウゴ、アクシアスによる三つ巴の戦いは苛烈な戦いを始めた。この段階ですでにティターンズの船団は内部崩壊を始め、戦況は徐々にエウゴ有利へと傾いていった。ティターンズの上級部隊はTR-6の機体投入を決定するが、エリアルドはベデルバインの命令により、これ以上戦火を拡大させないため、TR-6で戦線を離脱しようとする。



最終戦であるアスワンから撤退するTR-6。しかし、それは戦線から撤退するためではなく、戦況を悪化させて撤退するための内閣撤退であった。



1967年、大規模な人口移動に事柄をさそうようになってから、**シオニズム**は国際連盟（U.C.）0079年の
 地球からもっとも離れたスペースコロニーの建設が**シオニズム**の目標を名乗る
 地球軍に対しては独立戦争を仕掛けた
 1年戦争と呼ばれるこの戦いは、地球連邦の勝利に終わった
 シオニズムの理想は各所に、地球に對する敵意を行使するための
 U.C.0083年、地球連邦軍は、これらのシオニズムの目的とする情報部（サイバーズ）を設立した
 地球の治安維持を擔った

「機動戦士Zガンダム」よりスピンオフしたオリジナルストーリー第58回。今回はハマーンとの同盟を結んだティターンズだったが、かりそめの同盟は短期間で決裂。ハマーンは小惑星アクシズをゼダンの門に衝突させる作戦を実行する。エアリアルたちT3機も緊急避難の事態に巻き込まれていた。

5.8 EPISODE

■ゼダンの門周辺 ザンシバル 000000年1月
ガブリエル・ソラは、ザンシバルの艦橋からゼダンの
の門を見つめて言った。

二年戦争のときにこの要衝が英米法蘭西と占領されたのだな……」

「ソロモン、そしてア・バオ・ア・クー。俺たちは過去の幻影を追っていたのか……」

「たか、おれに現実な、現実な方法をたのまう。おれは、
無茶をやるものだ」

ン・カーンは今、アクシズをテイターズがセダンの
 門と呼んでいる。かつてのデ・パオア・タワーに激突させ

ようとしていた。
カプリエル・ソラが言った。

「ティターンズの艦船が逃げ出してくる。それを聞
けばいいんだ」

「エウーゴ本隊がこの作戦を伺と呼んでいるが知っているか?」「エウーゴはたまたま」で、謎解き行動を取る

「誰か必死だから、そう簡単にはいかんぞ」

「結局、エウもゴはアクシズの手を借りた形になった
な。エウーゴにしろデウスにしろ、俺たちの終の棲

「これは、おれが書いたものだ。おれは、おれが書いたものだ。」

「この戦争が終わるまで生きて、おれらという保証は同もないだぞ、カザフク」とかく生き延びる

「どうだ」
「そうだな……」「ガンダムを運ぶあの小隊を見つけ出せ。アスワン
カイスマールに集っているはずだ。俺はこの手で南

「『おれは日本を愛した』とは、おれは日本のことを愛した」
 禁た」

「そうでなければ、生きてはいけない」
カザンクラーンは深く溜め息をついた。

「戦いの発端は、グリプスが作ったガンダムだっただい」

は、半や引き気味にイズミールのそばにいます。
ネードリーの役割は大きい。後方において増援をしつ
つ、偵察機の役割も担う。

アスワンが無事出航すると、すぐにアスワンからモヒルス・ツベ隊が出撃した。二不隊出てきた。アスワンとツベ・ミールが軌道を含ませランデブーに入る。エリアルドたちテスト小隊は、移動してイズミールの周辺に展開した。

オードリーの声が響く。「エウー」のサンバル。例
 Getoとしたら、フ・ディ・ヌが出てくわい」
 「まなこさんね」

あのザンギバルは、テスト小隊を囑の仇にしているというより、ガブリエル・ソラというパイロットがガンダムに異常なほどにこだわっているのだ。

だとしたら、必ず、カール機を廻らうと、カール
もこのことを心算しているのだ。もしかしたら、エリッ
カも機も組むのかもしれない。フライングは基本は、
ギヤのベルトだ。エリッカが乗る号機には、ガズダ
ム機のアラビヤ機が添えられている。つまり、ガズダムに見
えなくもないというわけだ。

オートリリーが告げる。「サンシバルから毛ヒルストツ
三機、増装したリッパ・ディアス二機に、ネモが二機」
「敵、開しろ」

「マフイーの声が聞こえた。その瞬間に、エリデルは、両側のスラスターを吹かした。飛翔はされるような強力なGがかかる。

ネズがロングレンジからビーム砲を撃つてきた。シルドのように見えるものを持っているが、長距離用の武器も兼ねているようだ。

「マフイーが言った。『距離を詰めれば、どうということはない』」

その意思どおり、マ・フイは加速にものまいわせて接近戦に持ち込もうとしている。エリアルドもマ・フイの戦法にならなかつた。

ドラッグライトになると、ブライルとは威力をいかになく発揮した。ネモとはもともと機動力が違う。マッファイは、たちまち一機のネモを撃ち抜いた。

エリカがドモ、なんとか距離を取ろうとする手玉のシルドを破壊した。

カールがリク・ディアスを相手に、ドッグファイト

を展開している。マーフィーがそれに加勢する。機動力のあるヘイスル・アウストラとフライルを相手に、リック・デイスは苦戦をしようとした。

エリアルドは未毛を過撃しようとしていた。オトリド





リーの操縦装置のおかげで、敵は反撃のチャンスをつかめない。

やがてリック・アースは艦のまもりにてザンシバルに向って後退していく。

「敵の包囲網を突破する」

ハモンド副長からの通信だ。「コリスアイツは機銃アーム」

「アフォーゼ、また「アフォー」機、機銃します」

■エンタウ

0088年1月

アスワンは、イヌミールとともに、なんと敵の包囲網を脱するに成功する。

ヘンドリック・アースは、ビートとともに「コリスアイツ」の二機に呼ばれた。その区画は、コバイトウを出て、沿岸封鎖されており、技術士官以外は誰も立ち入ることすらできなかった。

技術士官の一人が言った。

「もう気づいていないと思うが、コバイトウは機銃込みだ。敵機は、機密度の高い新兵器だ」

ヘンドリック・ビートは思わず顔を見合わせていた。

「これから、その新兵器を我々がメカ・ワックに公開する。ただし、このことは口外しないように。今後、その情報に依りては難問扱いとするらしい」

「いむをいむない、ヘンドリックは思っていた。いったい何を言うに付けているんだ。この艦には、まだ小隊長だ。新兵隊をいふぞ。今さら珍しくもない」

「ではこちらへ……」

技術士官が言った。ヘンドリック・ビートはその後について、封鎖されている区画に向かった。そこにある壁を立て、中をスピン・アツを操る。ヘンドリックは、思わず口をあんぐりと開けていた。

「これが「アフォー」だ」

EPISODE END

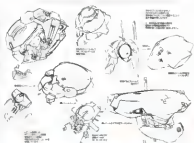
NEXT EPISODE

A.O.Z.U.C 0088 02
「クリプス攻防」

グリプス2を駆る有利な攻撃は、スコープが技術を支えて展開した。その戦場でエリアルは、ゾラと激しい戦闘を繰り広げる。



これまでのTRシリーズなどでテストされてきたオプション装備が、TR-6用に先を覚えて装備されている。TR-6は、さらに機体高と浮高に相応しい機動と武装を持った機体なのである。



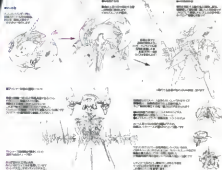
RX-124 TR-6[ウィンドフォート]

TRシリーズの集大成として開発された機体が、このTR-6[ウィンドフォート]である。TRシリーズは基本的にベースとなるMS（もしくは、MA）を改良して製作されていたが、TR-6[ウィンドフォート]は完全に新規で設計された初めてのTR機となる。TR-1から培われた最先端のMS技術が増しみなく進みまわっており、その機体ポテンシャルは今のところ未知数である。基本的な開発コンセプトは「可変による全領域戦闘」で、宇宙・地上・空中とMS・MAに求められる主な戦闘領域全てにおいて、高い性能を発揮できるように設計されている。他のTRシリーズと同じようにオプション装備による機能拡張が可能であり、本機も素体となるMSにオプション装備が装された機体である。

フィニッシュカラーに塗装されたTR-6 TR-6[ウィンドフォート]は、その形状からいって、TR-2[キハル]の発展を強く受けており、こういったカラーリングでの展開も検討されていた。



TR-6[ウィンドフォート]は、MA形態・中間形態・MS形態と状況に合わせて3つの形態を使い分けことができ、戦闘域や戦況の状況によって最適な形態を選択することが可能である。



中間形態

MAとMSの中間的役割の形態。機動性と機動性のバランスが取れた汎用性の高い形態である。



EWAC装備

早期警戒用のセンサーレーダーを装備したTR-6。センサーレーダーは、ブースターボンドの代わりに装着される装置であり、TR-6の攻撃能力を幾度約に向上させる効果がある。



TR-6の機体には装着されるパーツ。内部に特殊シェード・エンジンが搭載されている。TR-6の推進力は、この特殊シェード・エンジンによって供給される。また、素体を保護する防弾装甲としての役割も持っている。



MA形態時の正面前。アンマリーに組み込んだ円盤型の機体フォルムを持っている。これは、攻撃時の機体間の空間的余裕を向上させるための形状で、空中機動における機体性を高めることができる。

MA形態

TR-6 [ウェントワート]のMA形態。大気圏内飛行に重点を置いた形状であるが、宇宙空間での運用も可能である。



MA形態時の機体下面には折り畳み可能な翼があり、折り畳みによって低空飛行や急降下を行うことができる。

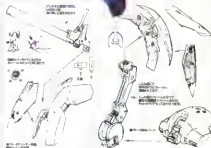
MS形態時の全高は約10m。右がTR-1(ハイズルズ)、左がTR-6(ツーンドワート)のMS形態である。ハイズルズと比べてTR-6が小型に作られているのがわかるだろう。



MS形態

TR-6(ツーンドワート)のMS形態。全高は約10m。右がTR-1(ハイズルズ)のMS形態である。ハイズルズと比べてTR-6が小型に作られているのがわかるだろう。

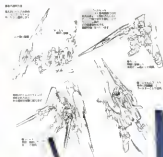
TR-6の腰部カバーのパーツ構成。複数のパーツで腰部カバーが構成され、それがフレームアームによってどうもフレームと連結されているのがわかる。これにより、自由な移動が可能になっている。





機首アッシャーのカラーパリエーション。右はライトブルーのウェーブカラー。右はトムカラーに塗装されたプラ用の機体。リック・ディウスに装着された「プラ」のカラーリングを写すように。

機体背面に装備された二枚のシールドは、パイナダー・ユニットは、ノーマルのリック・ディウスに装着されている。パイナダー・ユニットを大型化して武装を施した「武装AMBAC」でも通用すべき機構である。



ロング・シールド・ブースターは、T3標準のシールド・ブースターを参考に開発された。エコーゴの装備である。共通規格の装備のため、リック・ディウス以外にも、さまざまなエコーゴ製のMSで使用することができると。

MSA-003 ネモ・カノン

ネモ・カノンは、ロング・シールド・ブースターを装備した攻撃性のネモである。ロング・シールド・ブースターはエコーゴの共通規格に合わせて開発されているので、機体を選ばず使用することができる。また、シールド内にジェネレーターを内蔵しているため、メガ粒子砲を使用する際に機体のジェネレーター出力を気にすることなく運用できるのも大きなメリットだ。頭部にはセンサー保護用のフェイスカバーが装着されており、カラーリングとともに機体の印象が大きく変わっている。



MSA-099 リック・ディアス [シュトゥッツァー]

リック・ディアス[シュトゥッツァー]は、各種強化パーツを装備したリック・ディアスの強化形態である。機体の性能向上を目的に開発されたGディフェンサーに近く、装備することで素体となるリック・ディアスの機動力、防御力、攻撃力を全て向上させる。強化された機体特性は、対MS戦闘などの小規模な戦闘では十分に発揮することができる。戦闘エリアが広域に回る艦隊戦や対要塞攻撃戦などの大規模戦闘でこそ真価を発揮する。同時に複数のターゲットに対して攻撃可能なミサイルを多数装備しており、俯仰脚でミサイル攻撃によって戦況を開く、攻撃先鋒としての役割を担うことが多い。ロング・シールド・ブースターを装備することにより、機体性能はさらに強化される。

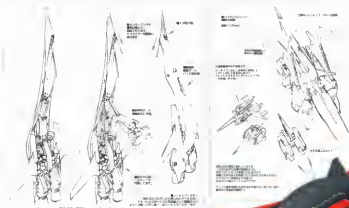


リック・ディアス[シュトゥッツァー]の開発には、リフたちがジオン軍時代に使用していたリック・トム[シュトゥッツァー]などのノウハウが随所に活かされている。



部を見ると、強化パーツがリック・ディアスの上半身に寄せられたような状態になっているのがわかる。機体は次の追加装甲がコックピットのある頭部の周囲をガードしており、パイロットの生存性も向上している。





リック・ディアス(シャットツァー)は、通常運用のスラスター・ブースターを装備することで、戦闘時の巡航形態をとることができる。リニアエンジンとガンダムA9-11が搭載した巡航形態「シャットツァー」に似た状態といえる。

ロング・シールド・ブースターは通常運用のスラスターだけでなく、攻撃時のメガ粒子砲も装備されている。攻撃、防御、回避と戦闘に必要な全ての機能が内蔵された兵装の兵装装備となっている。シールドの中心部には、ジェネレーターも内蔵されている。

リック・ディアス自体が電化しているわけではないが、通常戦闘時は機体方向が一方向に固定されるため、可変N型の機体形状のように高い機動力を得ることが出来る。

MSA-099 リック・ディアス [シャットツァー] 巡航形態



通常にロング・シールド・ブースターを装備した状態の平面図。機体の全高に対して、ロング・シールド・ブースターの巨大さがよくわかる。

STAFF

原作：富野由悠季・矢立肇

ストーリー：今野 鯨

メカデザイン：岡岡建機

キャラクターデザイン：斎藤卓也

マーキングデザイン：藤岡雄機&ペッパーショップ

設定協力：片岡大輔

企画：電撃ホビーマガジン編集部

企画協力・設定：サンライズ

©制作・サンライズ

電撃ホビーマガジン & サンライズ 共同プロジェクト

ADVANCE OF
ディターンスの旗のもとに



「TR-6のテストパイロットは
誰が担当する？」
「エリアルド・ハンター中尉です」

人間が、増えすぎた人口を海外に求めようとしていた。第二次世界大戦直後の冷戦時代（U.C.0079年）地球は、南北にも割れたスペースコロニーサド3の巨公館を築く。

地球連邦に対して独立戦争を仕掛けたジオン公国は、一年戦争と呼ばれるこの戦いは、地球連邦の勝利に終わった。しかし、ジオンの残党は各地に潜み、連邦に対する抵抗活動を行ったのである。

U.C.0083年、地球連邦軍は、これらのジオン残党の討伐を目的とする特殊部隊ティターンズを設立し、地球の治安維持を図った。

「機動戦士ガンダム」よりスピノブしたオリジナルストーリー第57回
小惑星アクシスをぶつつけられたゼダンの門からの
脱出を図ったティターンズは、グリプス2の防衛にあたる
しかし、敵艦の集ってそのグリプス2さえも、エーゴウの手に落ちていた
エアリアルだと丁度思ってた。最後の瞬間に気づくようにしていた

EPISODE
5.8

■イタルミール

0088年2月

エリザベス女王陛下は、米のように無慈悲な
「マス・シューター」艦長を見つめていた。今、艦長は
全艦放送のためのマイクを握っていた。

[illegible]

「司人等其罪大」

「王女が川原に落ちた」といふ噂が、

ノミ、ト部長は一向に謝罪の意思を受けない。いた、哲、今の言葉が聞かえなかつたかのように振返っていた。

「みんな、船長の言葉をちゃんと受け止めていますよ」

「ハモンドは落ちつかない気分になった。叱責されているような気がしたのだ」。

「そうだな。この戦い、勝たねばならないのだ。こゝで戦いで負けるようなことがあれば、ディターンズは滅亡になる」

「そういふことは、おしりもないほうが……」

ハモンドは、何となくたえていいかわからず、黙って、たゞ、戦具は話をきかした。

「それものテストパイロットは誰が担当するぞ」
「エリアルト・ハンター中尉です」

「マーフィー小隊ではないのか？」
「マーフィーがハンター中尉を推戴したんです」

「あ、時代交代のつもりか」

6のシミュレーターで問題を解いています。あまりのスピードのすごさに、シミュレーターの設定が間違

「はい、ありません」とメカニク「クリームをつけただけです」

「本義に、その丁度らも頑んだアスワンを守らねばならぬ」

「もし、いざというときは頼りなまるからさ」と
だど、ハモンドは理解した。¹⁰

「心得ております」

「これからフリーランスになる」

性

「モビルスーツのパイロットに頼んでおけば、決して死ぬな」と、少しでもチャンスがあれば生き延びる努力をするんだ。」

「『愛の物語』」

サンバル

0000年2月

「回復して、姓を元に戻せるよ」

「テレーザ」の意匠作戦を開始した。すでに、エウーゴ・ティターノス・アクシズの三つ巴の艦隊戦に突入している。

それぞれの勢力の持ち互えが接触するのは時間の問題だった。ガブリエル・ソウは、案外速に買った。

「アスワンでヌースミールを見上げられるかな？　やっつら
たぬすいっしよといるはずだ」

カザン・ラノンが艦長席からガブリエルに言うた。

「あくまでもがんがみにしたわるつもりだな。」

「わんぱく」の「ロリーター」のうは「ローター」

「エアチアネダブルに任せておけばいい。アスワンとイタミールを発見したら、すぐに本拠をそちらに向ける」

「俺はモビルスーツで特權するぞ」
「スーツ戦が始まるぞ」

カザリクろうソンは笑みを浮かべた。

「ガンダムをこの手で押さえるまで、艦を沈めてほしく」

「アブリエルは、アブリのジを出た。」

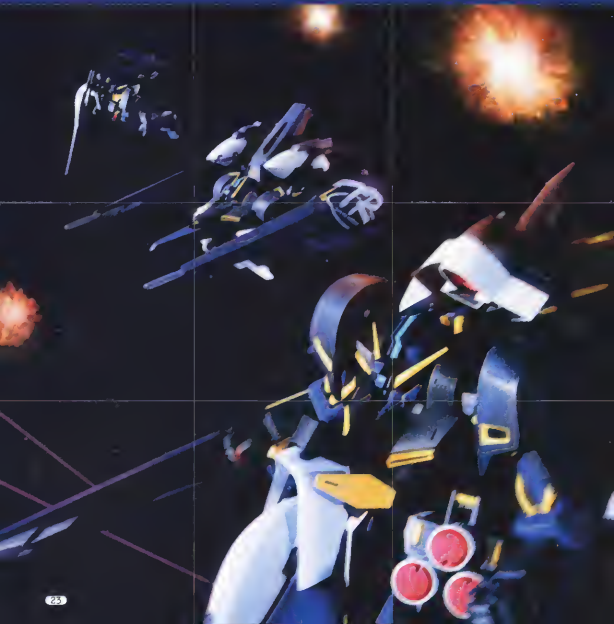
■「ホト」シリーズ

0088年2月

エリカ・ルドは、生まれて初めて新聞紙を接触していた。これまでは、眠いのファイルドが狭小に広いマイファイ・小雑誌の「エリカ・ルド」が百年

に見えてゐる。その向うには、カル機のガダや
ハイゼル・アラウがいた。エリサベトのフイルム
2巻機の左側には、オードリーのフルトに直がいた。

— 張以壬醫師的座右銘 —



「マフイー小隊長の聲が聞こえてきた」「味方の機」
「やられるぞ」

「暇縛が常に移動してますね」

「エリサルトは言った、三つ四つてのが、ややこしい」

「要するに、エロいゴモアクシズもやつつけりゃいいんでしょ」

[illegible]

マリーフイーが書いた

深天崎なカールにはいつも助けられてきた。新しい戦いであることは誰もが知っている。だが、カールの一貫したしかにエリザベトの気分はいくらか暗くなっていた。

テスト小隊も最前線に組み入れられていた。チームズズの主力戦であることを意味している。実権を握ったバブティマス・シロツゴというのがどういう人物か、エリアルドたちはよく知らない。知る必要もない。どうせ彼の上の存在なのだ。

エリカバルドは、隊長の命令に従う。隊長は副長や隊長からの命令に従う。副長は司令官から命令を受け、命令を遂行し、敵を倒し、生き延びる。ただけをやる。それで精一杯だ。

「また来たわよ」

オードリーの声が出た。「ザ・バルコ」

F-50M-KS-69

「カプリエを、ゾラは、ガブリエル・セザンヌだ」

「イズミールとアスワンを守れ」

マーフィーが言う。「ねぐらをやられたら、野蠻な死にだぞ」

再び、オムカサリイの声。

「モビルスーツ」機影云々。リラク・ディアス機に、ネオ・

「このタイプの同様に、下向きに傾いた」

「OAG-3000」

「マーラーが命じた」——オードリーは抗議して抗議

了解

エリアルトたちは、声をそろえてうたっていた。

「ライバーは1号機。2号機ともにMA形態になった」

[illegible]

「それなら、**「1000」**として、補償請求の値は**「1000」**が正解

のイスラ・アウスに聞いた。カイルは、ヘイズ

3・4の2つの6桁の整数をそれぞれ2桁の整数として用いたとき、

過剰な増加率のせいで小回りがきかないというク

ディアスの欠点をうまく利用していた。エリザルドは、

戦いの主導権はエリアルドが握っていた。
たちまちネモをロックオンした。そのとたん…



フライヤーの機動力を利用してネモの背後を取ろうとした。すさまじい圧力がかかり、頭を吹き飛ばすことになる。フライヤーの加速はまさに、数人前とは違う。

ネモもようやく反応してくる。だが機動力の差は圧倒的だ。エリアルドはフライヤーの機体をMS形態に変化させる。フライヤーを連射した。

ネモのフライヤーも軌道に外れている。こちらの射撃を予知したような動きを見せた。だが、戦いの主導権はエリアルドが握っていた。たちまちネモをロックオンした。

そのとたん、機体に衝撃が来た。

「なに……」

エリアルドはエスターを見回して、何が起きたのか二秒ほど立ちどまる。

「のやろっ」

カールの声だ。「おまの相手は俺だろ」その言葉で動いた。カールを逃さうとするばかり思っていたワウのリック・デウスが、味方機を救うためにエリアルドに向けてビームを撃ったのだ。シールド型の武器に無い。

エスターに機体位置が露出される。右足をやられていた。これだとなされる。

エリアルドは、カールについてリック・デウスを片付けることにした。それを見越したように、リック・デウスが追加する。

「速い……」

エリアルドは、一回エスターからリック・デウスの姿を見失った。

そのとたん、再び機体に衝撃を受けた。今度はさきほどよりも強烈だ。

「やられたのか……」

エリアルドはエスターを見た。いくつかのバレルが消えた。

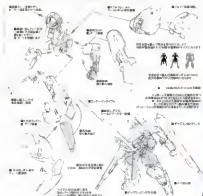
無敵の機が連射のやうに、ランダムに弾子がいかに飛んでいる。あるいは、機体そのものか……

スラスターを噴出したが機体は反応しない。これでは困る。撃ち落とされた。エリアルドは、最後、心臓を撃つかたがらう。

EPISODE END

NEXT
EPISODE
A.O.Z.U.C 0088 02
「脱走」

グリプス2機連作戦で機体に弾手を食ったエリアルドは、イスミールが脱出のを目の当たりにする。かろうじてアスロンに降参したエリアルドは、最後、の戦いが下される。

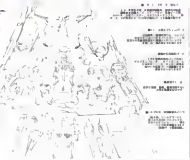


RX-124 TR-6[ウィンドウォード]

TRシリーズの集大成として開発された「TR-6」は、単体の機体を指す呼称ではなく、コアとなる機体「ウィンドウォード」を中心とした一つの兵器体系を意味するコードネームである。TR-1がそうであったように、豊富なオプションパーツによって素体となる「ウィンドウォード」を強化し、あらゆる環境、あらゆる戦場で最高の性能を発揮できるように、多種多様なオプションパーツが用意されている。少数精鋭のディターンズがMSに求める「絶対的な勝利」という性能を具現化するため、TRシリーズが行き着いた結核が「TR-6」なのだ。理論的には、パーツの交換により既存するどの機体よりも高いスペックを実現することができるため、視認点では最も「最強」に近い存在ということができよう。



TR-6のために開発されたオプションパーツ群。そのほとんどが、ハイブリッドなTRシリーズ専用システムが搭載された装備であり、性能や運用効率に異色を加えている。

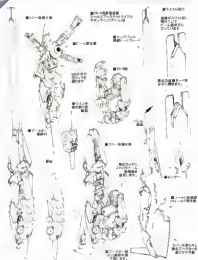


TR-6(ワンフォー)の平面図。
ヘイズのほとんどの大きさが判らな
い。胴体部分の構造は小さく、
機体の大部分が大きいのは、
太もも関節にジョイントが
内蔵されているためである。

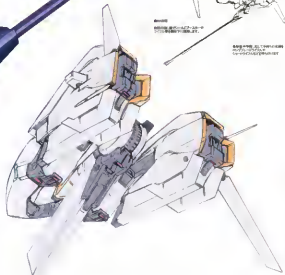


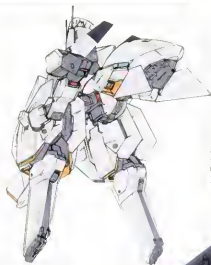
MA形態

特異な形状のMA形態。このま
までの大気圏内飛行は強力な特
性が無く、推進システムがハ
ードウェアとなるため、この形態は宇
宙空間飛行としての性能が低い。
機体部分のパーツは大気圏内飛行
形態を保持したブースターガン



宇宙戦闘機といった面持ちの
MA形態。単体でも優れた性能
を発揮するが、やはりワン
フォー機能が機体の前面となる

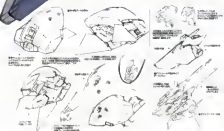
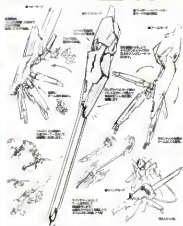




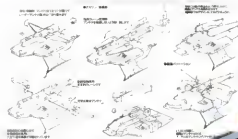
TR-Bへのオプションパーツの装備/ターンは左側内側によって手前方向であり、新機/ターンを名称や形状で特定するのは非常に難しい。



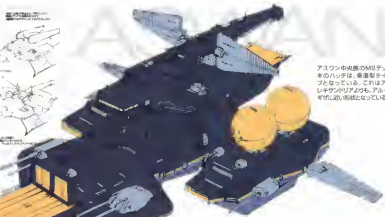
射撃用ロングビーム・ライフルや特殊用クローとしても使用できる多機能シールドのコンボット・シールド・ブースター。TR-B(ワrenchワード)の主武器となる兵器である。



ヘイズルの可動式ブースター・ガードを廃止させた機體を新機である。これにより、大規模突入用の高火力・機動機動も追加されており、より多岐な任務に対応できるようになっている。



ASWANNの電磁波のアンテナレイアウト図。テスト部隊の用意であるASWANNは、内部の可変素子も送信能力が強い大型のアンテナが設置されている。運用時、アンテナが空欄になる場合は、折りたたむこともできる。



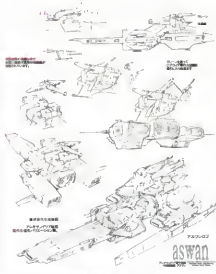
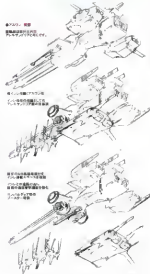
ASWANN中央部のMSデッキのハッチは、垂直型タイプとなっている。これはアレキサンドリアのアル・ギザに近しい形状となっている。

アレキサンドリア級宇宙巡洋艦 アスワン

アレキサンドリア級宇宙巡洋艦は、ティターンズの中核を成す宇宙艦艇である。高いMS搭載能力と火力を持ち、ヘガス線を含むMS母艦として一年戦争後に建造された新鋭艦だ。1番艦のアレキサンドリアを母艦にアル・ギザなど同系艦がティターンズの専用艦として運用されている。アスワンはコンベイトウを母艦としてL5宙域に展開しているティターンズのテスト部隊「T3部隊」の母艦として配備された。アスワンは新型機が次々と投入されるテスト部隊の母艦として、他のアレキサンドリア級よりもMSデッキが拡張されており、十分な機体ストックスペースが確保されていた。グリプス戦役の末期には、TR-6の専用運用艦としての改修プランも検討されていた。

TR-6(インレ)の専用運用艦「アスワン改」への改修計画図。艦首部やMSデッキ部分の形状が大幅に変更され、インレを3機も搭載できるようになる。

TR-6(インレ)は、アスワン改のような艦艇での運用の他に、専用の宇宙艦艇ステーションを衛星軌道上に展開して、地球上のあらゆる場所へ遠隔に高度・距離でさまざまな状況に対応可能なもので作成されていた。



STAFF

原作：星野由悠季・矢立肇

ストーリー：今野 喜

メカデザイン：藤岡謙哉

キャラクターデザイン：藤岡謙哉

マーキングデザイン：藤岡謙哉&ベッパージュッブ

設定協力：片岡大輔

企画：電撃ホビーマガジン編集部

企画協力・設定：サンライズ

©新渡・サンライズ

電撃ホビーマガジン & サンライズ 共同プロジェクト

ADVANCE OF Z

ティターンズの旗のもとに



人口を急増させた地球を主眼に移転させるようになってから半世紀が過ぎた宇宙世紀（U.C.）0079年
地球からもっとも離れたスペースコロニーサイド3がジオン公国を名乗り
地球連邦に対して独立戦争を仕掛けた
後に一年戦争と呼ばれるこの戦いは、地球連邦の勝利に終わった
しかし、ジオン軍の残党は各地に基み、連邦に対する抵抗運動を行ったのである
U.C.0083年、地球連邦軍は、これらのジオン残党の討伐を目的とする特殊部隊ティターンズを設立
地球の治安維持を担った……

『機動戦士Ζガンダム』よりスピンオフしたオリジナルストーリー第58回
ゼダンの門を失い、グリプス2さえもエゥーゴに奪われたティターンズの兵士たちは
ジャミトフ・ハイマンを失いかつも
自らの正義を信じて、グリプス2奪還のための戦いを続けていた



イタリヤ

2008年2月

そしてガブリエル・ソラは、連邦軍がその名を冠したモビルスーツを開発しつづける限り、戦いをやめるわけにはいかなないと断言していた。

カプリール・ソラは、テイカーンズが開発したガンダムの姿を追い求めてリリタ・テイアスも反転させた。

「直撃だな。弾幕を逃れたぞヒルズ」のせいだろう」
すぐに被害を知らせる隊内通信が入った。

「左越彦部に複数の権有。モビルスーツによる攻撃です。被害区画の隔離閉鎖」

「リーダーは長が言った。『艦を放棄する。』総員退艦」

ハヤト副長はびっくりした。あまりにも、船の位置が早すぎるように思った。まだイヌミールは眠るのではないかと懸った。

「宇宙をなめてはいけません。地球の赤と白が混濁し、海上で悪逆無道の助けを待つようなわけにはいきらないのだ。生命維持装置のないところでは、人間は二眼のうらに死ぬ。船は作り直さざるが、人間はもういいかな。すぐに「乗組」全員をシャトルで脱出させて下さい。」

「部長はどうされますか？」

「全員の出社を確認してから、私も脱出する」

「了解しました」

ハモンドがそうしたえた時だった。二編の大半がブリッジの前を横切った。再び衝撃が襲う。

「Lifestyle」

シレーダー艦長が言った。「総員進艦。逃げ」
この人は、一人の部下も死なせたことがないという

仮説を述べている。その理由が今わかった。無駄死にを許さないという躍如たる信念があるのだ。生き延

びすこそ、また眠える。將兵こそが軍の財産だと信じてゐるのだ。

ハモンドは、乗客員の脱出に全力を傾けた。それからどれくらい時間が経ったかわからない。

「モビルスーツはすべておのづかに捨てる」
 シン・ローが言った。「まあ、君が行くんだ」

「私に謝罪してほしいです」
「私の伝説に泥を塗るつもりか。さあ、行け」



それがオンドが倒れた直後の最後の言葉となつた。オンドが最後に出す声に乗り込み、艦を離れた直後、イザールは泣いた。

【オンド】

0088年2月

「イザールが死んだ」

フリッツ艦長の丁合言葉。

「ベアルセン艦長は、即座に命じた。」

「うろなるな。脱出中にシステムを回収しろ」

「司令室に入ろ」

決闘員が叫んだ。「現、アウレン、司令室。I号の侵入を阻止しろとのことです」

「この船に死んで、新艦を操るべからぬのだ」

「そういう命令です」

ベアルセン艦長はうめいた。

タイタリス・エー・コスミズ。それだけに彼が思いつくようなジレンマは、タイタリス艦長もバスター・ム大本佐も死んだ。コロニー・サーイはエー・ゴに奪われた。すでに勝敗は決まってる。

I号を投入すれば、それまでの成果を手放さし、進まないついでに、それはさらに敵の計画を助すことを意味している。事あるがごとくいうやつだ。

それにI号はたのミロバスターではない。それはバスターという名の兵器だ。新しいバスターを投入すれば、戦場に少なからぬ混乱をもたらすだろう。

艦は戦いを長引かせる。タイタリスが後退に立つたとしてもそれは一時しのぎに過ぎない。もはや、戦況当初のタイタリスではない。理を失ったため、理なき重戦に脚を自はしない。のまな戦いを終わらせるべからぬ。バスター投入すべきではない。ベアルセン艦長はそう思った。だが、司令部の命令に逆くわけにはいかぬ。

「ミロバスター・タイタリスのメカマワに任せて。I号をいれでも出るようにしろよけ」

「了解」

間も無く、他のフリッツ艦隊が報告した。「発射した。一連のシステムが正常です」

「ベアルセン艦長は命じた。」

「ミロバスター。攻撃員は命じた」

「I号、I号にバスター中絶です」

「問題ないから」

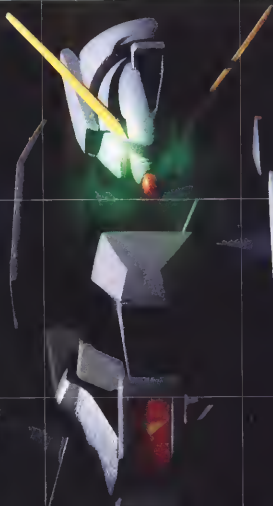
「回避できそうです」

「お前達、注意しろ。I号を絶対死なせるな」

「I号を生きて送り出した」

アウレンのシステムがバスター・コライターのコ





「そうだ。コンペイトウの最終兵器、
ガンダム・ウインドウォートを実戦投入するんだ」

EPISODE END

NEXT
EPISODE
A.O.Z U.C. 0088.02
「最終兵器」

戦場を失ったエリアルドに与えられた最終兵器、ガンダム・ウインドウォート。その驚異的な性能に戦慄を覚えたエリアルドに下された最終命令とは？

クビートを機動解放して、エリアルドに預つて、「破壊したギンザンは放棄する。機体のおれがある」
仕方がないとエリアルドは思った。
「マッファイ小隊長は？」
「あつた」
エリアルドは機体が指示した方向を見た。おまふれのマッファイ大尉が囁はれていく。ひどい損傷をうけていたのだ。
「小隊長」
エリアルドが巧くこうすると、マッファイは笑みを浮かべて機体を立ててくれた。
「機体がおかしくなりました」
「小隊長の言葉は真実だに任せて。あなたも休んでください。いまだに命令がくるかも知れません」
雷がわたるおりにするしやがた。
エリアルドは、初めてくたくたに疲れているのを意識した。
「まだそうか。さうなら、い、再出陣の命令があるかわからないので、手配された居住区まで休むことはできません。エリアルドはモビルスーツデシキの調子もわるわねと通つたまま、ばしの体着を脱いでいた。まだ機動が早い。息苦しかったら、エリアルドはそれを知らず、を近づけたのだ。
「エリアルド？」
遠くで誰かが囁かれた声が聞こえてきた。
「ヘンドリック……」
「いいイモタでもさうに聞かたな」
「どういふ意味を？」
「フリッジから指示が来た。エドをいでも出陣するよにしようか……」
「機が乗り込むとどうなる？」
「おまえさんが、正統のパイロットだ」
「出すのか。おれも……」
「そうだ。コンペイトウの最終兵器、ガンダム・ウインドウォートを実戦投入するんだ」

RX-124 ガンダムTR-6(ウインドウォート)

素体となる「ウインドウォート」を中心に、オプションパーツの装備によってさまざまな形態へと変化するTR-6であるが、指標となるいくつかの形態が存在する。本形態はディターンズ製可変MSの中でもトータルバランスに優れた名機「RX-110ガブスレイ」の機体特性を模した高遠戦闘形態である。この高遠戦闘形態は、MS・MA両形態でのバランスが良く、高水準の戦闘力を保持している。特に宇宙戦を得意とし、さまにに対応できる柔軟な機体性能を有している。

●ウインドウォート(標準)モード



TR-6のオプションパーツは、各部分のさまざまな機能の最大な運用ワークを基に開発されており、結果としてオプションパーツ装着時の機体形状は、他のMSと異なる。

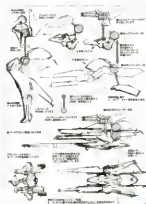
●TR-6のオプションパーツ



高遠戦闘形態

一見すると野蠻な可変MSと見受けられ、オプションパーツによって構築された機体とは思えない。バランスの表裏は、形状だけではなく、機体性能も組み込まれている。

機体の可変機改造。各パーツがMS形態からMA形態になった際、どのような配置になるのかがよくわかる。上半身と下半身に2本のドラムフレームが使用されている。



MA形態

MA形態は本戦場内での運用を想定しているため、まさに「空中要塞」といった形状となっている。宇宙空間での高速戦闘に最適なMAのスタイルを追求した結果、行き着いた結論がこの形状であった。

高速戦闘形態の上半身となるトップファイター。分離した状態でも機体前部部としての運用が可能である。各種オプション装備を装備することもできる。



機体トップ部

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

上半身のトップ部は、機体前部部としての運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身は、上半身のトップファイターと、下半身のドラムファイターに分断することができ、戦況に合わせた柔軟な機体運用を実現している。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

MA形態の上半身が機体は、分離した状態で運用も可能。機体前部部としての運用が可能です。

「ワンズドゥオート」の増強戦機形態は、
 OOB7期後半より多く見られるようにな
 った20メートル超級の大型MSサイズに
 なっている。背広強化を主めた結果、MS
 は巨大化して行く傾向にあった。



アドバンス形態

増強戦機形態の上位仕様として、フルドリアを装備し
 た形態（後にアドバンス形態と呼称されている）。フ
 ルドリアの装備によりTR-6（フライヤー）同様のエリ
 ア・ドミナンス（領域支配）能力デブリーの機体となる。

RX-121-3C ガンダムTR-1 [ハイゼンスレイ]

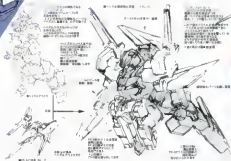


「ハイゼンスレイ」は、TR-1「ヘイズル」にTR-6開発で得られたノウハウをフィードバックした機体プランである。これにより「ヘイズル」に残っていたジム・クウェルのパーツは、ほぼ全て新造された強化パーツへとすげ替えられることになる。上半身は「ワンドウォート」高速戦闘形態の上半身がそのまま使用されるため、頭部から胸部、肩まわりの形状が「ヘイズル」とは大きく異なる。

TR-1「ヘイズル」のハイゼンスレイ化機体部 色分けされた部分がTR-6のパーツに置き換えられる部分となる。ヘイズルの腿出力装置であるラムコースとTR-6の上半身は同一機体のため、構造が共通であった。



TR-6の球形ユニット、機体側にも多種多様なオプションパーツが開発されている。配置によって異なるパーツを自由に組み合わせることができる。



「エアルドはTR-6で戦線を離脱した」 「敵前逃亡に当たると言っているやつもいる」



EPISODE 6.0

■アスラン

0081年2月

恒夜をしていて、ライオン隊員はエルス・リオンに連れられて、エアルドはびくくりして、きりぎりすの音に振り回されている。そのとき、ライオン隊員は「エアルドは戦線を離脱した」と言っている。アスランは「敵前逃亡に当たると言っているやつもいる」と言っている。

「敵前逃亡に当たると言っているやつもいる」

「だにしない。アスランのバグトであるおまえに、重要な知らせがある」

「何でしょう」

「アスラン、アスラン、アスラン」

「エアルドは、戦線を離脱しているのか、逃げてきたのか」

「アスラン、アスラン、アスラン」

「エアルドは、戦線を離脱しているのか、逃げてきたのか」

「アスラン、アスラン、アスラン」

「エアルドは、戦線を離脱しているのか、逃げてきたのか」

「アスラン、アスラン、アスラン」

「エアルドは、戦線を離脱しているのか、逃げてきたのか」

「アスラン、アスラン、アスラン」

「エアルドは、戦線を離脱しているのか、逃げてきたのか」

「アスラン、アスラン、アスラン」

「エアルドは、戦線を離脱しているのか、逃げてきたのか」

「アスラン、アスラン、アスラン」

「エアルドは、戦線を離脱しているのか、逃げてきたのか」

「アスラン、アスラン、アスラン」

「エアルドは、戦線を離脱しているのか、逃げてきたのか」

「アスラン、アスラン、アスラン」

「エアルドは、戦線を離脱しているのか、逃げてきたのか」

「アスラン、アスラン、アスラン」

「エアルドは、戦線を離脱しているのか、逃げてきたのか」

「アスラン、アスラン、アスラン」

「エアルドは、戦線を離脱しているのか、逃げてきたのか」

「アスラン、アスラン、アスラン」

「エアルドは、戦線を離脱しているのか、逃げてきたのか」

「アスラン、アスラン、アスラン」

「エアルドは、戦線を離脱しているのか、逃げてきたのか」

「アスラン、アスラン、アスラン」

「エアルドは、戦線を離脱しているのか、逃げてきたのか」

「アスラン、アスラン、アスラン」

「エアルドは、戦線を離脱しているのか、逃げてきたのか」

「アスラン、アスラン、アスラン」

「エアルドは、戦線を離脱しているのか、逃げてきたのか」

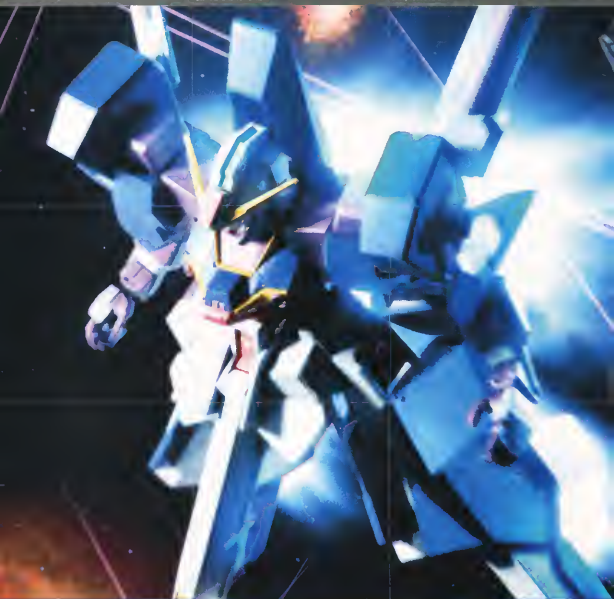
「アスラン、アスラン、アスラン」

「エアルドは、戦線を離脱しているのか、逃げてきたのか」

「アスラン、アスラン、アスラン」

「エアルドは、戦線を離脱しているのか、逃げてきたのか」

「アスラン、アスラン、アスラン」



出願するように

ペデルセン船長の言葉に従うてはならぬ。

ペデルセン艦長は、気をつけをした二人を前に、磁石で立つたまま言った。

はモビルスーツ側の小隊長が要請すべきことではない
【50】

マイクローの言葉を聞いてきいたまま黙っていった。

通とマーフズの傷の具合だ。

「それ、お嬢様の言が聞かなくてごめん」

「この命令に従わなければならない」

それは充分に承知しております

「さ、僕はまたさあ、行くから」

「丁度を出す。すべし準備」ががれ

「はい」

きつていたえるしかなかったです。

6を破壊しろ。それが、君の任務だ」

「新兵器の破壊など、君たちの立場で判断できる。」

とではない。私が艦長の権限に命令する。さあ、行け」

エリアルドは、ようやく納得した。ペデルセン艦長

ちマーフィー隊長と同じように生き延びたのだ。もう迷う必要はない。

「失礼します」

エリサルトが監査室を出ようとしたとき、マーフィの体がふわりと宙に浮き上がった。力尽きた種子

だった。龍馬の言葉を聞いたとたん、安堵して振り返っていた舞力が直をついたのだろう。

「医療科」ペデルセン部長が室内電話で呼びかける声が聞こえた。「すぐに部長室に人をよこせ。身の

理解らずの性我人が無理をして氣を失つたようだ。

「MA海外版の換算が間に合わない」ヘンドリックとキスが食った「モビルスーツ形骸のままだくれ」

了解た。

エリアルドは考えた。戦いに行くわけではない。大がかりな装備は必要ない。かえって、小回りがき

くモビルスーツのほうが都合がいい。エリアルドは、

する。それがこの戦いを終わらせるにあたって重要

なことならば、その任務を果たすだけだ。必要な
ら、ガンダムもろとも自爆する」ともやむを得ない



と考えていた。

「エリア・ド・ハンター。ガングム・ウー、下ウオート、出ます」

エリアルドは、ブラシクをウトしそっくりなくらいGを感じながら、T.H.もで星の海に飛び出した。

■「ローラー」に近い

0058年2月

ガブリエルツォは、最前線から受けばかり引いた位置で楽戦をしていた。主戦線は、アーガを中心とする戦線に任せておけばいい。すでにエウロゴ、ディター、スエアウシの三つ巴の戦いには興味をなくしていた。所詮は、連邦内の勢力争いになくして引き込ま

れてしまっただけのことが、ガッカリするほどで、
ともと駈う組織がない。エウゴに参画した当初は、
スハーフイドのために駈うという意図があつたが、コ
ロドーサーを運る戦いには積極的に関わる氣にな
れなかつた。

結果的にガンダムという存在が、ガブリエルの心の中でクローズアップされていった。敵のガンダムを倒す。その懸念だけが、今のガブリエルの職責をまっとうした。『ついでに何だ……』

モーターが撮影をとらえた。個別コードはディタインスのものだが、既存の機体リストのデータベースにヒットするものがない。

「新型が……」

「手ごたえを最大望遠に切り替える。ガブリエル・ソ
ーは鳥が熱くなるのを感じた。」

「無常なるもの、入念・守戒と

その意味が、読者と読者の大いに異なることである。

先生は暗黒空間だ。

「さあ、さあ、さあ……」

一瞬戸惑いを覚えたが、そんなことはどうでもよかった。

つた。新型のガンダムを更につけたが

とほつた。駢つて破壊するだけだ。

ガブリエル・ワウは、高速で移動する新型ガンダム
の追尾を始めた。

デスクトップ

000000年二月

所屬機のイグニッションを失ったカールは、アスワンに到着するように指示されていた。ヘイズル・アウスマをアスワンに誘導させた。

「推進剤だけ補充したら、すぐ」出るからな」

カーネルは、へん下りのクニ

「ホーリー・グランド」

「わたしは、エウイ二艦隊の手助けはしてくれず、隊長とエ
リセルとの間にしるしをなすぞ!」

二人は、アスワンに襲った。隊長は、負傷したところから、エリアルドは、TR-6で出た。ロクにいる。エリアルドは、TR-6で出た。

RX-124 ガンダムTR-6 [ウインドウォート] 高速戦闘形態

高速 実戦投入が目的のTR-6「ウインドウォート」は、ディターンズカラーへの塗装が施されている。白を基調とした試作機カラーのままの配備となった。そのカラーリングは、実は、かつて戦争で活躍したMS「ガンダム」を彷彿とさせる配色であった。「ウインドウォート」は、有名な機體が描かれているガンダムは、あの機體者となることを意識して開発された機體なのである。



714

カラーはこの機體のエンブレムとしてデザインしてマーク。甲冑をまとった大剣を構えた騎士ウサギといった意匠である。しかし、高機にはヘイストを隠すために機體が隠蔽されたため、幻のエンブレムとなってしまった。



MS形態



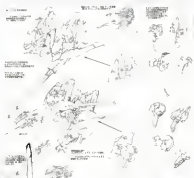
MA形態

機體にユニット化されたTR-6の機體は、パーツの組み換えによってさまざまな用途に対応することが可能であり、すでに既存の兵器が「ガンダム」では不十分だと認識された。当時のディターンズとMSとも異なる設計思想によって開発されたTR-6「ウインドウォート」の性能は、当時の最新MSとも一線を隔すほどに高く、実戦投入されればさらなる戦場の混乱は必至であった。

フルドⅡ

のパーツ「フルドⅡ」の運用デ
ータを基に開発された機体「ハ
ーグ・システム」(フルドⅡ)
の機体、単体の武器メカ
として使用するこ
とが可能である

「フルドⅡ」は、ドラムフ
レームを中心にコクピ
ットブロックやスラスターブ
ロックなど、複数のパーツ
の組み合わせで支えられ
た構造を構築している



プリムローズⅡ

(ヘイズル・アウス)で試験された機体「プリ
ムローズ」の後継機。当時の推進剤を改良してい
るためパイロットの生存性はMSの標準値に近
似した状態であるインジェクション・システムよりも高い。

「フルドⅡ」を改良した「ウ
ェンドフォート」のMA形態は
そのある能力により大気層
内での飛行も可能であった。



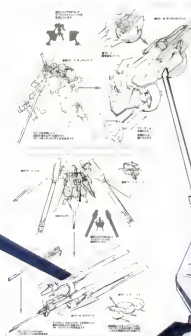
MA形態アドバンス仕様

「フルドⅡ」を改良した「ウ
ェンドフォート」のMA形態は、す
べてにMAというよりも機体構造
などで行うような宇宙船のよう
な巡航形態と特出へは機体である

「フルドⅡ」のコクピ
ットブロックとなる「プ
リムローズ」の機体
構造はシンプルである。コ
ア・ファイターのような
高気圧構造ではない。



TR-6 [ウィンドウォート]は、TR-1からTR-5まででテストされたすべての機体形態を変換できるように設計されている。TR-4やTR-5形態では、[ウィンドウォート]がコアMSとして機能する。



RX-124 ガンダムTR-6 [ウィンドウォート] 侵襲・殲滅形態

巨大MAユニットを装着した状態のTR-6。「侵襲・殲滅兵器システム (invasion and destroy weapon system)」として開発されたTR-6の本来の姿ともいえる形態。車輪で敷地に侵襲し、強大な火力によって目標をすべて破壊・殲滅するだけの戦術力を秘めた機体兵器である。一撃のみで戦況を覆すことも可能な、戦術兵器でありディターンズの「切り札」となる可能性を秘めた機体だった。

機体の大型ユニットの名称により、TR-6は「機体兵器」とも呼ばれるMA形態である。侵襲・殲滅形態を形成する。



TR-6は「フルドロー」をアダプターとして、さまざまな大型パーツを接続することが可能である。

ファイバー形態

TR-6(ワンドウォート)をコア・ユニットとしたTR-5(ファイバー)と両腕の組立を組み合わせ、より洗練されたフォルムが盛り上がり、完成された形態を現せる

ラー形態

[フルド]を基盤としたTR-1の[ヘイズレーサー]形態を模したTR-6(ワンドウォート)のラー形態。こちらは[フルド]ではなく、[フルドII]を2個搭載した高二形態仕様となっている

ダンディライアン形態

TR-4(ダンディライアン)と両腕の大型組立をモジュールを装備したダンディライアン形態のTR-6。外見からはわからないが、コア・ユニットとしてTR-6(ワンドウォート)が内蔵されている

[ワンドウォート]の高さ
縦向き等アトランス仕様の
機体構造は 機体はG上
部を G下向き [フルドII]の
3個で構成されている。

新装備である[フルドII]
は、[フルド]とまったく
異なるTR-1やTR-5
をバリエーションする機
体パーツとして構築する



STAFF

原作：星野由悠季・矢立肇
 ストーリー：今野 敏
 メカデザイン：藤岡謙敏
 キャラクターデザイン：斎藤卓也
 マーキングデザイン：藤岡謙敏&ベッパースhop
 設定協力：片岡大輔
 企画：電撃ホビーマガジン編集部
 企画協力・設定：サンライズ

人類が、増えすぎた人口を宇宙に移住させるようになってから千年が経った宇宙世紀（U.C.）0079年
 地球からもっとも離れたスペースコロニーサイド3がジオン公國を名乗る
 地球連邦に対して独立戦争を仕掛けた
 僅に一年戦争と呼ばれるこの戦いは、地球連邦の勝利に終わった
 しかし、ジオン軍の残党は各地に匿み、連邦に対する抵抗活動をを行ったのである
 U.C.0083年、地球連邦軍は、これらのジオン残党の討伐を目的とする特殊部隊ティターンズを設立
 地球の治安維持を担った……

『機動戦士Zガンダム』よりスピリットしたオリジナルストーリー第60回
 ティターンズ、エゥーゴ、アクシズによる三つ巴の戦いはすでにエゥーゴの勝利で収束に向かいつつあった
 それでもなお、戦場では多くの兵士たちの命が散っていった



かない。

機を本気にさせるために、ある程度の攻撃が必要だった。

ネモがまたドムライフルを撃ってきた。エリアルドは、撃ち漏した。

となに、ワードワーストの機体が反応した。瞬にして、三機のネモが撃ち落とされた。機体はクロオンをとり、トリガーを燃やした。あとは自動的に砲を追尾して破壊していった。

さらに、強力なワードワーストのサイレントキーンは、サウスエースのフリッジを撃ち抜いた。戦艦に壊滅的な打撃を与えた。残った三機のネモは、すぐさま撤退していった。

エリアルドは、その破壊力に驚いていた。シムズレーショでは無かったが、軍艦では初めの体験だ。こんなものを、この時期に安易投入とはいけない。エリアルドは、あらためて思った。

ガブリエル。ソラは、目の前の空軍に座落た。といった何かが起きるかわからないほどの戦時の出来事だ。

『モビルスーツ小隊は、戦艦を倒して……』

思が熱くなるのを察した。

『それで、カズム！』

「この戦争が、ソラにとって最後の戦いになるかもしれない。新造のガンダムと戦って死ぬの、かなり本望だ」とまごついていた。

ソラは、再び暗黒空海の方角に移動を始めた。ガンダムに向かっ、シールド・キーンを向けた。

ソラが撃つてきた。強力なビーム兵器だ。エリアルドは、反動的にそれを回避していた。いつしか体に染みついて、モビルスーツパイロットの習性だ。

「何をやってんだ、機長……」
「ただ、黙ってソラの攻撃を喰らわねばいけなかった。そうすれば任務は終わる。だが、それは思ったほど簡単なことではないとわかった。」

表情に決めた。いはい。だが、いざとなら黙って死なないのは耐えられない。黙って死ぬならまだしも、ただ確信的に死んでいくのは受け入れがたい。

ソラが再び撃ってくる。

エリアルドは、またしてもそれを回避していき、恐怖がじわじわと全身を襲いつけてきた。そう早く死を覚悟したので。

くそ……。これでは機を落とすところがない。エリアル

「モビルスーツ小隊と、戦艦を一瞬にして……」



トは目を青くしぼった。

ソウのリクタイアスは、距離を取っている。こちらの攻撃を警戒しているのだろうとエアルドは思った。新しいガンダムのスベックは、ソウにとっては未知数なのだ。

それでも、自分の火銃の威力に自信を持っているのか……

「量産などするとはいい、こちらはもう反撃などする暇はない。さあ、撃て……」

エアルドは、スベック・リクタイアスをめけた。ウィンドウは、宇宙空間で高速運動を始めた。

「動きを止めなさい……」

ガブリエル・ソウは、警戒して、距離を取りながら機体を移動していた。

「ガンダムは、いつに何の……」

相手の機体がまったく読めなかった。今相手はただの機体に見えるが、そう思われて予想もできない攻撃に出るに違いないとガブリエルは思った。

相手は誰だ。しかもガンダムだ。

相手の機体がまたくわらぬので、うきに動けなかった。へたに動けば、やらせられるかもしれない。だがこのままでは、どうにも始まらない。

ガブリエルは、戦場で初めて不気味な不安を感じた。じりじりと時間経過……

「ええ、これは何かがある」

シート・キヤン・ミロウツラした。

「ふらけるものなりは……」

キヤンを発射した。

機体は、ガンダム・ガンダムの左側面を吹き飛ばした。それでも、ガンダムは動かなかった。胸部を破壊された機体で、機体を始めた。激動機を……

「何を……」

機体のガンダムを破壊するのは、今やガブリエルの太刀の目標だ。だがそれは機体であるガンダムと違って動かない。その光景は、無慈悲な戦いを……

でも、ガブリエルにとっては別の意味……

「……」

ガブリエルは、ティターンズ・モビルスーツ隊の無敵の攻撃をスベックに……主戦場からかなり離れているので、ミロウツ・機体の速度は低い……



「ならば、望みどおり、
ガンダムとともに死ぬがいい」

闘争を繰返されその衝撃で機体が巨艦を突いたエリアルドは、ただ恐怖に耐えつづいた。死の覚悟などという改竄なものではない。剛が奪うてくるのをじっと耐えて待たなければならぬのだ。

これは、戦艦にも等しい。
スラスターを動かして、この場から逃げ出したから逃げて死ななうと断った。大規模の艦艇によるGを撃じていたが、エリアルドは逆襲に耐えかねた。

要撃制敵のために機体は壊れたら、即座にそこから逃げてしまふかもしれない。あるいは恐怖のために反撃をしようとする。エリアルドは自分の体をまきしめるようにしてじっと耐えていた。

そのとき、無敵が告げられた。

「ガンダムパイロット、聞かされるか」

エリアルドは、恐怖に歯を食いしばっていたため、即座に反撃を断った。

「パイロットは誰だ？」

河床が呼吸して、ようやく声を出すことを止めた。

「リアルドパイロット中尉だ。その前は、カブリエル・ゾラウ」

「うーん、さういふもんだ？ 新型のガンダムは強り子の前だ？」

「タイタニスの名軍のため、奮闘してゆく。この機体はこれまでのすべてのモデルズのスペックを凌駕している」

「ならば、この機体に対してその性能を見せたのだろう？」

「このワンドウオウトは、実戦投入しない。出撃したと見せかけて、機体を破壊するのが、自分の任務だ」

ゾラウが断言するのだから、驚きのために言葉が出ないのだから。しかし、くしてゾラウの声が聞えてきた。

「おれだ？ 何のためだ？」

「おれはたはあなただけ一番よく知っているはずだ」

「海を知っているというのだ？」

「この戦争の本質はすでに決まってる。ここで新たにガザムを投入するにどういう意味があるか……」

……無駄に戦いを展開させて、被害を増やすだけだ。そんなことは、他には関係ない。ガンダムを破壊したいのなら、望むとおりにしてやる。だから、海と戦え」

「それが無駄な戦いだらどうしてやらん？」

「少々の戦いはあつた軍人なら、何の価値が



EPISODE
END

NEXT
 EPISODE
 A.Q.Z U.C 0068 02
 「終戦」

無情な言葉を吐き出したゾラの真意とは、ゾラとの直接対話はエリアルドにどんな影響を与えるのか? そして二人を逃したカールは、その光景を目撃しある決断をする。次巻「アトバンス オブ ズー」で3巻の結末へ、遂に完結!!

[illegible]

り」との出会い。そして、さまざまな難
人生が送れる。それを裏切っていた。

「ならば強みをより、ガザムとどぞ」
「あはれい」
「ロクオンの警戒音が、元々でん」
「はい、今度はずなれば来る。エリアルドは、目を閉じた。ガブリエル・ソファと話をしたことで、不思議と恐怖が遠のいてい

た。

「それが、自分の任務だ」

「それでも眠れないとどうのかが、黙って死を待つとどうのかが」

リアク・デ・アスのピーム長巻が発射された。機体に再び衝撃が走る。今度は、左腕がやられたようだ。機体の回転に新たにひねりが加わる。それでも、エリアルとは豪快な機動をしようとしなかった。



**MS-099
リック・ディアス[シュトゥツァー
メガ・バズーカランチャー装備仕様]**

コロニーレーザーを巡るグリアス戦役最後の戦いで投入されたロング・シールド・ブースターを3枚装備したリック・ディアス[シュトゥツァー]の戦闘形態。3枚のロング・シールド・ブースターにより機力、攻撃力、防御力が一様に補強されている。さらに攻撃力を向上させるべく、MSの機行武装としては最大級の威力を誇るメガ・バズーカランチャーを装備している。

MSA-006 RICK-DIA[リックディア] 機体構成図



近距離戦のリック・ディアス[ショットアップアー]。3機のロングシールド・ブースターによる推力の増強と3門になったメガ粒子砲は、大型MSA並みの加速性と攻撃力を生む。

1機の数で大量のエネルギーを消費するメガ・バスターガンダーも、3機のロングシールド・ブースターに搭載されたジエネレーターからチャージを行うことで、大規模な連発効果が図られている。

いびつに強化された機体性能は決してバランスの悪いものではなく、ガリアエルゾらほどの力量を持ったパイロットでなければ性能を引き出すことは難しかったであろう。



この機体の特徴的な部分として、胸部に設置されたマルチ・ジョイント。TRシリーズと共通機構のジョイントであるためオプションパーツの増設口や、推進部の出入口などとして多目的な利用が可能になっている。

マルチ・ジョイント

マルチ・ジョイントは、胸部に設置されたマルチ・ジョイント。TRシリーズと共通機構のジョイントであるためオプションパーツの増設口や、推進部の出入口などとして多目的な利用が可能になっている。

ビーム・ライフル

タイタースからの依頼により火器メーカーのブラッシュ社が開発した試作型のビーム・ライフル。Eパックによるエネルギー供給システムなど、斬新な技術が導入された最新鋭な次世代ビーム・ライフルとして開発された。ヘイズルが使用しているモデルは、取り出し易さを優先して簡易性が優れている。



バックを特徴とした特別仕様のEパック。総重量を抑えるヘイズルは、ビーム・ライフルのエネルギー消費が激しいため、このような特殊な構造が採用されている。



バック部分に設置された推進用スラスター。ヘイズルの総重量の約1/3の重量が集中している。推進力は歩行装置としてだけでなく、推進装置としても重要な役割を占めている。

エンジン

最新型の熱核融合エンジン。高効率の燃焼ジェット・ロケット・エンジンとして推進能力の提供の後、ジェネレーターとしての発電能力も持つ。次世代を昇格したハイブリッドエンジンの概念モデルである。

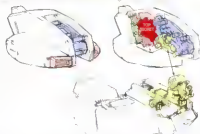
可動式・ブースター・ボンド

機体バックパックに取り付けられた可動式のブースター・ボンド。ブースター・ボンドが可動するため機体方向を変えることができるベクター・スラスターとして機能し、ヘイズルに高い運動性を与えている。



可動式・ブースター・ボンド

可動式・ブースター・ボンドの構造アームなど、さまざまな機能強化が施されたバックパック。元となったジム・クウェールのバックパックよりかなり大型化している。センサーや視覚補助パニアなど、さまざまな追加機能が追加されているのがわかる。



電撃ホビーマガジン & サンライズ 共同プロジェクト

ADVANCE OF Z

ティターンズの旗のもとに

人類が、超えすた。この宇宙に移民させるようになってから半世紀が過ぎた宇宙世紀(U.C.)0079年、地球からもっとも離れたスペースコロニーサイド3がジオン公国を名乗り地球連邦に対して独立戦争を仕掛けた。連邦に一年戦争と呼ばれるこの戦いは、地球連邦の勝利に終わった。しかし、ジオン軍の残党は密かに謀み、連邦に対する抵抗活動を行ったのである。U.C.0083年、地球連邦軍は、これらのジオン残党の討伐を目的とする特殊部隊ティターンズを設立。地球の治安維持を圖った……

『機動戦士Ζガンダム』よりスピントしたオリジナルストーリー編第61回
ティターンズ、エゥーゴ、アクシズによる三つ巴の戦いが
エゥーゴの勝利で収束に向かいつつあるなか
ガンダムを襲って戦いを挑んできた二人の青年の戦いを描き進んでいた

STAFF

原作：富野由悠季・矢立肇
ストーリー：今野 敏
メカデザイン：藤岡健機
キャラクターデザイン：宮藤卓也
マーキングデザイン：藤岡健機&ベッパーストップ
設定協力：片岡大輔
企画：電撃ホビーマガジン編集部
企画協力・設定：サンライズ

©サンライズ

EPI-NOVE 6.2

プロローグ付録

エリアルドは、機体に変化を耐えた。一瞬、攻撃を受けたのかと驚いたが、どうも様子がおかしい。ウィンドウサットの機体は、ひねりが加わった回転を繰り返していたのか、それが止まらないうえに、リク・クディアスの頭部がすぐ近くに近づく。

「何て……」
エリアルドは戸惑った。
ガブリル・ソリスは、兵器での破壊ではなく、物理的に破壊するにこそ選んだのだろうか。それでも同じことだ。ウィンドウサットを破壊されたらエリアルドは生きてはいられない。ノイ・ヴァースで宇宙空間にいられる時間はごく限られている。

エリアルドは機体に乗って、シートの両脇を離った。そのとら、リク・クディアスの頭部ハチが動くのが見えた。バロムが姿を現す。
「聞いてるかエリアルド! ハンター・中尉」
ガブリル・ソリスの姿を初めて見た。彼はノイ・ヴァースのヘルメットの通信機から話しかけてきている。

「聞いてるかエリアルド! ハンター・中尉」
ガブリル・ソリスの姿を初めて見た。彼はノイ・ヴァースのヘルメットの通信機から話しかけてきている。

「コクピットから出てこい」 エリアルドは、ゾラの言葉の 真意をはかりかねた。

「何をするつもりだ」
「私にもわかるん」
「わからないだて……この機体を破壊すればいいだけの話じゃあないか」
「ただ、破壊するだけでは意味がない。ガンダムを撃て。あのウェンドウオートが撃てることは、もうない」
「どちらか本気で思っているさまだな」
「もちろん本気だ」
「ガリエル、ゾラはしばらく無言で、ハミの後ろに佇んでいた。やがて、彼の声が聞こえてきた」
「ガンダムを破壊するのは、私が自らに課した使命だ」
「ならば、その使命を果たせばいい」
「そして、同時に、ガンダムの破壊は、貴官の任務なのだろう」
「だからどうだというんだ」
「貴官はガンダムの完全な破壊を目論める機体があるはずだ」
「それは不可能だ。ウェンドウオートのコクピットにいた3人連合を共にさせなさい」
「それでは任務を完了したことになるわい」
「でも、それが自分の任務だ」
「そんな方に力を与えることはない。エリアルド、ハンナ、中尉、パイロットは、助けて死ぬものだ。さあ、このコクピットから出てこい」
「同感です……」
エリアルドはガリエル、ゾラの言葉の意味をはかりかねた。「いっけい、何を言ってるんだ」
「まあ、私にもわからない。だがこうするは存しないような気がする」
「何をしようというのだ」
「私が自分に課した使命と、貴官の任務を両立させる確かな方法だ。そして、私の戦いの歴史にも終符を打つ」
「どうしよう……」
「こちらのコクピットに来い。共にガンダムを破壊するのだ」
エリアルドは、あきりのように言葉を吐いた。
次の瞬間、エリアルドは飛び出していた。
「何がおかしい」
「僕にもわからないよ」
エリアルドは言った。
「だけか、笑わしはられた」
「私にはなにしているのさ」
「そうじゃない、どうしてそんなにきつな、きつな、僕はうれしかった」



二人の指が重なりあって トリガーボタンにかかる。 「私の使命と貴官の任務の遂行だ。行くぞ」

「うれい……」

「さう、あなたは、僕の命と自分自身の誇りを守るうたとしている。このまじないは三三〇回の戦争の中心に、めて大々戦士に出会った」

「さあ、戦いとはどうなるか。さあ、やるのだから、さあ、早く決まらん」

「わかった。そちらの提案をきこう。で、そちらに移動する」

エリアルドは、ワンドワットのコクピットハッチを開けた。機体を軽く離れて、リクダエスオオのハッチまで飛んだ。

ガブリエルゾラが、エリアルドの顔をしっかりと捕らえて、リクダエスオオのハッチに引き入れた。

コクピットは狭かったが、エリアルドはなんとガブリエルゾラの腕にうづこみできた。ノーマルサイズのヘルメット越しにガブリエルゾラの顔を覗きこんだ。

「驚き、高バトロットの顔を記憶に刻みこんでいた。」「かなりの距離があるから、気づくべし」

「誰か知っている。これでもガブリエルゾラのバトロットだ」

「ふん」

シートに収まったガブリエルゾラは、リクダエスオオのハッチを覗きこんで、ワンドワットから距離を取った。

強力なビーム兵器の照準は、ワンドワットを捉える。主軸に照らすのマークを点灯した。

「エリアルドは言った」

「突きを喰らうともいえない」

ガブリエルゾラは、エリアルドの言うを見え、

「私一人の仕事ではないと聞いたぞう」

「エリアルドは、思わずガブリエルゾラを見据えた。」「わがトリガーボタンだ。さあ、ここに手をかけろ」

エリアルドは、静かに思いつくままに、言われたとおりにした。ガブリエルゾラは、エリアルドの手の上に、その手を置いた。二人の指が重なりあって、トリガーボタンにかかった。

私の使命と貴官の任務の遂行だ。行くぞ」

ガブリエルゾラ、その指の力を加えた。同時に、エリアルドも指の力を加えて、トリガーボタンを押し込んだ。じいじが、ワンドワットに向かい、飛び出した。

ワンドワットは完全に破壊された。

手を離したガブリエルゾラが言った。

「これで、私とガブリエルゾラの戦いは終わるのだな」

そのとき、遠くから、砲撃の音が響いてきた。



「エリカランドー！」

カールの声だった。

カールは調解しているのだ。

エリオルドが呼びかけようとしたとき、カールのヘイズル・アウスラに装飾された増強の巨大な火器から強烈なビームが発射された。

それを回避した。

エリアルドは、必死で叫びかけた。

「アキアルドなのかな……。生きているのか? どうにかなるんだ」

「現金で、何だぞ！」

「何だ、で……」

ガブリエル・ソウが言った。

「さあ、味方が来たんだ。帰るべき場所に帰るがいい」
 リナルドは、ハチの隣に立ち、振り返った。

「あなただけに命を助けられました。礼を言います」
「礼はいい。だが、その命、大切にすることだ」
「御礼を……」

エリカ君下は、宇宙空間に身を投げ出した。
リック・デアスは、スラスターを喚かして、あつという

増殖したヘイズル・アウスラが近づいてくる。エリアルドは、そのコラビットに招き入れられた。

方へんが導かれた。

「ガブリエル・ソウ。彼のおかげで、死なずにペデルセン
隊長の密命を全うできた」

「何があつたのさ？」

「アムステルダム」

「もう、俺たちの帰る場所はない」
そのとき、戦場を貫くまばゆい光の筋が見えた。

一、何大、表打に「」

MDI-3-4-4

エリザベスは突然としていた。幾多の艦船がその光に焼かれていった。その光の球が遠くに見えていた。

カールのヘイズル・アウストラに装着された
増装の巨大な火器から
強烈なビームが発射された。

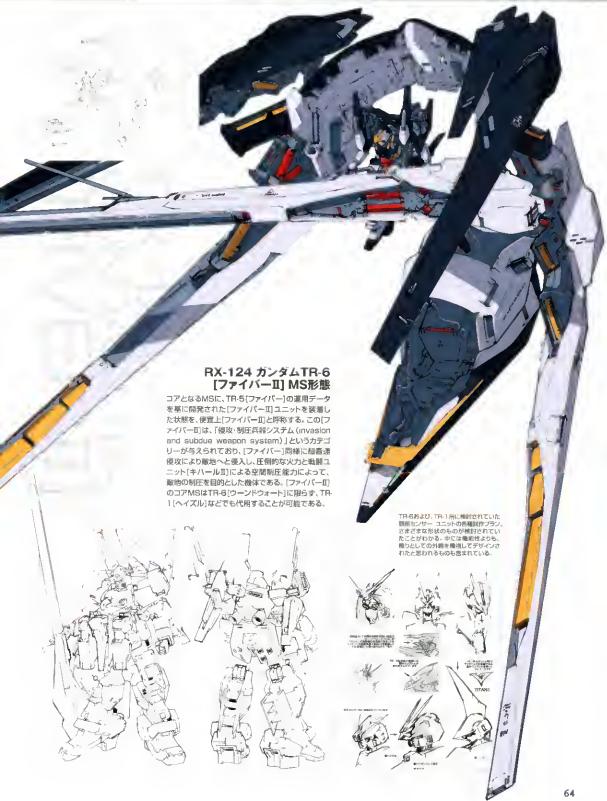


「もう、こいつが
戦う必要もないだろう。
ゆっくり眠らせてやろう」

THE END

「フレドリックの機嫌が凄まじく悪くなったぞ」
「カールの機嫌も、アムルは全然に返った」
「ガダムを脱獄に仕立ててはならないと誓われた」
「みんな、みんなさういってわかんないけど……」
「そのとき、ティターンズに対して、繰り返し攻撃を
呼びかけるエウ」の機嫌をキチとしたアムルと
いう言葉の真逆だという。
カールが言った。
「俺さ、どうもさないだ。このまま野垂れ死にかな……」
「ガブリエル、うに命を大切にするように誓われた」
その言葉を無視して、
カールが口を開いた。
「なら、殺陣するしやないか」
「まじやう」
「おい、このヘイメルアウタもガダムだぞ、こいつ
を持たないと脱獄するの、まじやないのや」
「まうかな……」
「こいつも脱獄してやう」
「おまの言葉、どう」
「さういって戦う必要もないだろう、ゆっくり眠ら
せてやろう」
「いっつも脱獄したら俺たちはどうやって生き延び
るんだ」
「おれたのか、ヘイメルアウタのゴブレットは、そのま
ま脱出用の機体になるんだ」
「うう、俺たちは、ヘイメルも脱獄してやう、こ
の機体ですすまう」に違すのも思ひない。
二人はさう決めた。

宇宙世紀0088年5月、ティターンズベネチア・コ
アランスの三つ目のコロニーが、攻防戦は継続し
た。アムルとハタチ中尉のそしてガブリエルと
カールの戦いは続いた。

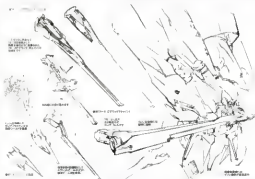
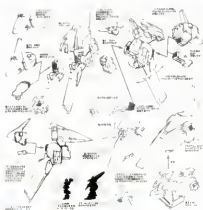


RX-124 ガンダムTR-6 [ファイバーII] MS形態

コアとなるMSに、TR-5[ファイバー]の運用データを基に開発された[ファイバーII]ユニットを装着した状態を、便宜上[ファイバーII]と呼称する。この[ファイバーII]は、「侵攻・制圧兵器システム (invasion and subdue weapon system)」というカテゴリーが与えられており、[ファイバー]同様に超音速侵襲により敵地へと侵入し、圧倒的な火力と戦闘ユニット[キハールII]による空間制圧能力によって、敵地の制圧を目的とした機体である。[ファイバーII]のコアMSはTR-6[ウインドウォート]に限らず、TR-1[ヘイズル]などでも代用することが可能である。

TR-6および、TR-1用に機体デザインされた数個のランチャーユニットの併装試作マシン。さまざまな形状のものも検討されていたことがわかる。中には電動性よりも、弾力としての外観を重視してデザインされたと思われるものも含まれている。

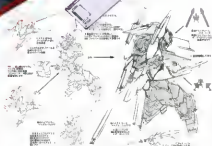




TR-6[パイパー-0]にも共通のTRシリーズのノックアウト部分に組み込まれている。主武器のハイパーロングレンジ・ビーム・キャノン。TR-2[ビグウイング]の高出力ロングレンジ・ビーム・キャノンをさらに強化したもので、衛星軌道の自中戦と威力が向上している。並行ビグウイングキャノン品。

RX-121-3C ガンダムTR-1 [ハイズェンレイ]

結局、プランニングのみで実際に運用されることはなかった[ハイズェンレイ]形態であったが、TR-6の素体として開発された[ウインドウォート]同様、TR-6の兵器システム全般の中核ユニットとして機能する能力が与えられており、各種強化パーツやパワーアップ・ユニットなどの接続・運用が可能であった。



TR-6の設計は計画に珍奇な機体設計の大型ブースター直撃プランなども検討されていた。TR-6の機体は、この機体に通らない可能性と夢を託していたようである。



「ファイバーII」の機体防衛バインダーには、船殻を3つに分けて「ファイバーII」の機体を保護することが可能である。また、防衛用の拡張ホームランやファイナル・クエスナーも備えている。

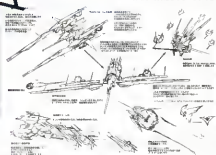


TR-6(インレ)用に考案されていたパーソナルマーク、ウサギの耳が翼の形のように変形して、今までのデザインにあったTRシリーズ(ウサギ)がティターンズ(鳥)の形態として完成したことを示している。

【ファイバーII】巡航形態

南米最盛期を行う際の「ファイバーII」の形態。全長100メートルを超える巨大MAながら、ミッドフースークラフト技術などの採用により大気圏内でも飛行することが可能である。下位の機体防衛バインダーを前方に展開し、機体バックスを減らすことで機体への負担を最小限に抑えた機体防衛を実現している。

「ファイバーII」の機体防衛バインダーは、船殻を3つに分けて「ファイバーII」の機体を保護することが可能である。また、防衛用の拡張ホームランやファイナル・クエスナーも備えている。



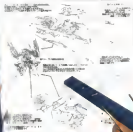
【ファイバーII】射出形態

展開している「ファイバーII」を射出するために、機体防衛バインダーを左右に展開した射出時の状態。その形状は、まるで機体を引っ張る翼を付けたような趣向が凝らされている。

RX-124 GUNDAM TR-6[インレ]

RX-124 GUNDAM TR-6[インレ]

「インレ」のサイズ対比図。
通常サイズのMSはもとより
主脚40メートル級のサイコ
ガンダムも、さすがにほら
かに上回る巨大な機体となる。
UC 0087年における機動
兵器では 最大サイズの機
体であることは間違いない。

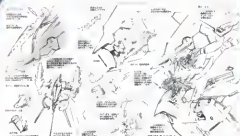


「インレ」のコアとなるTR-6[フ
ードウォード]と「インレ」ユニ
ットの両端には、フルドットのチ
ーム・フレームが利用されている。



RX-124 ガンダムTR-6[インレ]

TR-6の究極形態。「ファイバーII」(上半身)と、「ダンディライアンII」(下半身)を一体化させた決戦仕様
の形態である。その戦闘力は計り知れないもので
あり、この機体がグリプス2攻防戦に投入されてい
たら、エゥーゴの勝利は覆っていたはずである。その
場合、グリプス戦役は泥沼化して長期戦となり、戦火
は地球圏全体に拡大していたに違いない……。



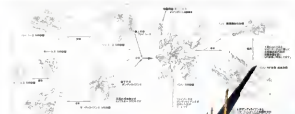


物に類を異ないバインレの機体形状は、戦闘という行為を遂行した機体美とも、戦敗のためのいびつな変化ともとれる独特な形状となった。たまた、ひとつだけ確実なことは、人がこの機体を見たときには「異物の姿」を感ぜずにはいられないということである。

オレンジカラー①(キハール①)。この機体ではTR-3(キハールの地上タスク部隊、オレンジを機体カラーとして使用するが例外になった。

●バインレ機体 前編

右の図は、HL Vに似た大出力ブースターを装備した大気圏離脱用の機体である。機動兵器に要求されるあらゆる性能(シチュエーション)に対応すべく、技術面では116にすべての可能性を詰め込んだのだ。



TR-6は最終的に[インレ]に開発するべく開発された兵器システムである。その機体バリエーションは、これまでにTRシリーズを発展したものとなっている。

アドバンス仕様の「ウインドウォート」エアリアルが最後に用意された形態のガンダムがこれであるが、この頃の機体は実現しなかったデザインスケッチに過ぎない。

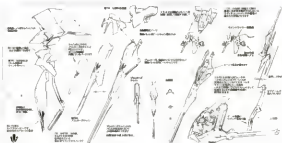


RX-124 ガンダムTR-6[ウインドウォート]

ハイパー・ロングレンジ・ビーム・キャノンを構えた[ウインドウォート]。この型は、TR-2[ビグウィング]でテストされた大出力長射程ビーム型の完成形で、威力と命中精度が向上している。艦船の主砲をも上回る長射程を誇るが、接近戦では長い機体が邪魔になるため基本的に先制攻撃に特化した武装といえる。なお、この型の「ウインドウォート」は、下面に[インレ]の下半身となる[ダンディライアンB]ユニットが装着されている。その上に浮いているのは[インレ]の上半身となる[ファイバー]ユニットだ。

RX-124 ガンダムTR-6[ウインドウォート] 武装形態バリエーション

TR-6[ウインドウォート]は、それ自体がコアとなりオプションパーツを装着することで、戦況に合わせたさまざまな武装形態をとることができるオールラウンドな機動兵器システムとして設計されている。ティターンズの末期に開発された機体であり、混乱の中で開発計画が進行したため、開発チームの過激な設計思想に歯止めがかけられないまま計画は一人歩きを始めた。その結果、TR-6は宇宙世紀史上でも例を見ないほど多彩な要素を内包した。正に「一機当千」の機体となる予定だったのである。なお、ここに掲載された画像はすべてコンセプトのみの存在である。



フロントアーマーとして使用される機動バレル型ビーム・キャノン・ユニット。射出ボルトがバレルローディング機構でバレル・キャノンを強化・発射された後装填である。



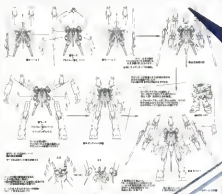
機動ブースター・ユニット。スカートアーマーのように胴部に装着したり、シールドに装着したりすることで、発射に威力強化を図ることができる。

フライルーII射撃形態

両腕のビーム砲撃スラスタ・ユニットや背部の大型スラスタなど、その機体レイアウトがフライルーIIと類似していることからフライルーIIの名前が与えられたTR-6の武装形態の一つ。両腕と機体中央のフロントアーマーの計3基、強力なビーム砲を備えていることから、射撃形態とも呼ばれている。3基のビーム砲とも長射程を誇っており、遠距離からの一方的な射撃攻撃が可能であった。







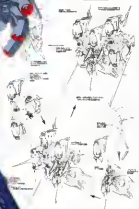
TR-6「ウィンドウォート」をコアとした機体試作形態のパーツと、機体バタンは、行方不明に付いた。機体から機体まで多様な形態バタンが用意されている。

ラーII形態

この形態はTR-6「ウィンドウォート」にフルドIIを装着した、ヘイズルにおけるヘイズル・ラーに相当する試作形態である。フルドII以外にも、さまざまな強化パーツが装着されている。



ウェンガーの機体完全体。ウェンガーは機体に機体化、ユニット化されており、さまざまな機体レイアウトが可能であった。



ウェンガーは機体完全体。ウェンガーは機体に機体化、ユニット化されており、さまざまな機体レイアウトが可能であった。

ギガンティック形態

日本にあるニュータイプ研究所「ムラサメ研究所」で開発された可変MA「MRX-009 サイコ・ガンダム」の手足を装着したギガンティック形態と呼ばれる試作形態。その機体的な意味・用途は不明であるが、サイコ・ガンダムの手足を装着することで、機体は40メートル級の大型機となり、敵パイロットに与える心理的なプレッシャーは大きいと思われる。

※このページに掲載されているモノクロ版のメカ画は、あくまでもデザイン上のコンセプトであり、ガンダム公式設定ではありません。

RX-124 ガンダムTR-6[ウインドウォート] フルアーマー・クインリ形態

TR-6の拠点防衛形態にサイコ・ガンダムの手足を装備した状態を指して「フルアーマー」と形容する。本形態の背部に装備された球状のユニットは、地上での浮遊移動を可能にするミノフスキークラフト用の「ダイダロス・ユニット」である。このように、さまざまなオプションパーツが用意されているTR-6であるが、その目的はグリプス戦役で展開された連邦軍MSのパーツ規格を統一し、互換性やメンテナンス性を向上させることであった。



TR-6の拠点防衛形態は、機体のウェポンカウチが縦を向き、足が折り込まれることから、別名「クインリ」(女王)とも呼ばれている。



TR-6のサイズは前面、中央の「ウインドウォート」フルアーマー・クインリ形態は、40メートル級のサイコ・ガンダムやバーフェクト・ジオンよりも巨大な機体となっている。左側のTR-6の機体と比べると、その大きさがよくわかる。

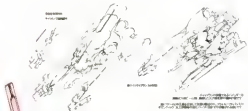


ORX-005 キャブランII-5[アドバンスド・フライルー]

上段左の図がアドバンスド・フライルーの全身図。スラスターやウェポンカゴの追加により機動性と攻撃力の増強が図られている。上・中段の右の図は、[フライルー] エリアド機の素体。マーフィ隊長の[フライルー] 1号機同様に、T3部隊へ配備が決定していたためT3部隊カラーに塗装されているが、すぐに実戦部隊へ編入されたため再塗装はされていない。中段左の図は、TR-6による規格の統一が成される前に設計された[フライルー]の強化プランである。

RX-124 ガンダムTR-6[アドバンスド・キハールII]

下段の図は、TR-3[キハール]を模したTR-6の形態である。一番左は、ウェポンカゴなどの追加武装を施したアドバンスド形態で、TR-6の前面防衛形態の機体左右には、この[アドバンスド・キハールII]のMA形態がジョイントされている。

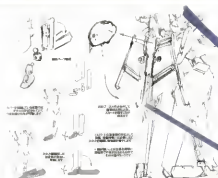


ガンダム TR-6(サイコ・インレ)

この計画は、決戦兵器として開発された「インレ」に、サイコミュを組み込んだ究極の兵器構想である。「インレ」の頭部に相当するユニットがサイコミュ搭載型に換装されており、サイコミュ兵器の運用が可能となる。さらに、複雑な「インレ」の火器管制をサイコミュを利用した思考制御によって行うことができるようになるというメリットがある。しかし、当然パイロットはニュータイプか強化人間に限られてしまい、今までノーマルなパイロットにこだわっていたコンペイトウ技術本部の方針には反するコンセプトとなる。機械を過剰に進化させた結果、それを操る人間もまた「人間以上」を要求されるという兵器開発のジレンマがそこにはあった。

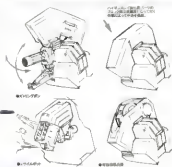
「サイコ・インレ」の頭部ユニットの武装サイロに収納できる武器バリエーション。機体や他の兵器から、サイコミュ制御兵器が、頭部で各種兵器が可動である。

TR-6(アドバンスド ワーフォートEX) 高度有線化後の「アドバンスド」に2機の「アドバンス」を装着した強化形態である。主要パーツの構造に集中しているため、頭部のレイアウトには比較的影響が少なく、TR-1(ベイズ)や他の機体の頭部なども影響が可視となっている。頭部を換装した場合でも、MA形態への変換は可能である。



【アドバンスド・ワンドフォート】の脚部にヒール・ギア駆動部。ヒール・ギアは推進機構の「かかと」であり、地面着陸時や地上任務において機体の姿勢調整のために駆動されるパーツ。

【ハイゼンスレイ】の推進用パーツには駆動機構スペースが設けられており、作戦内容に合わせて武器を換装できるようにしていた。



【ハイゼンスレイ】 クルーザー巡航形態

【ヘイズル】にTR-6【ワンドフォート】のデータをフィードバックして作られた【ハイゼンスレイ】に、巡航用ブースターを装備した形態。



RX-121-3C ガンダムTR-1 【ハイゼンスレイ・ラー】

【ハイゼンスレイ】に【アドバンスド】のパーツを2機分装備した【ヘイズル】における【ヘイズル・ラー】第二形態に相当する戦闘形態。【ヘイズル】の最終進化形といえる【ハイゼンスレイ】にさらなる強化を施した状態であり、TR-1シリーズ中でも屈指の戦闘力を誇る。さまざまな戦闘形態がテストされたTR-1シリーズであったが、最終的に運用目的が特化した特殊任務でない限りは、このラー形態がもっとも柔軟で多様な任務に対応できるバランスのよい戦闘形態であることが実証されている。

推進用補助スラスターユニットの改良検討案。既存パーツも必要で改良の余地が限られていた。



※このページに掲載されているモノクロ原稿のメカを忠実に再現するにあたってデザイン上のコンセプトとあり、サンライズ公式設定ではありません。



TRシリーズという兵器システム

TR-6[ワントワード]、TR-5[フライラー]、TR-1[ヘイズル]の3機は非常に拡張性に富んだ設計となっており、それぞれの機体が強化パーツのコアMSとして運用された。



ガンダムTR-6 バリエーション一覧

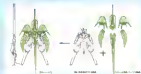
TR-6は、TR-1、TR-5をも含めた一種の兵器システムとして開発された機体である。各機体は、各種の強化パーツを装着することで多種多様な形態への模様が可能であった。

基本となる4つの強化パーツ

下記は、代表的な4つの強化パーツを装着したTR-1、TR-5、TR-6の戦闘形態である。他の形態はここから派生している。

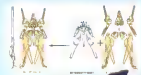
RX-124 ガンダムTR-6[キハールII]

TR-3[キハール]のデータをフィードバックして開発された強化パーツを装着した可変MS型の戦闘形態。TR-6の戦闘形態[インレ]の継承機として開発された。



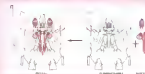
RX-124 ガンダムTR-6[アドバンス・ワントワード]

高速戦闘用の強化パーツを装着した戦闘形態。一見すると新造されたMSかと見紛うばかりの完成度の高さと、単体の戦闘形態として総合バランスにも優れている。



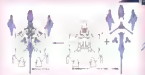
ORX-005 キャプランTR-5[フライラー]

TR-5[ファイバー]の素体となるT3部隊仕様のキャプランに、Gパーツ[フルドII]を装着した機体。領域支配機というカテゴリに分類される高性能機である。



ORX-005 キャプランTR-5[アドバンス・フライラー]

[フライラー]にアドバンスパーツを装着した戦闘形態。高い機動性と攻撃力を持つ形態で、スラスターの追加装備により加速性が飛躍的に向上している。



RX-124 ガンダムTR-6[フライラーII]

TR-6にTR-5[フライラー]用のアドバンスパーツを装着した戦闘形態。長距離での射撃戦を得意としているが、逆に胴部がオミットされているため機動性には不向きだ。



RX-121-3C ガンダムTR-1[ハイゼンスレイ]

TR-1に高速戦闘用強化パーツを装着した戦闘形態。TR-1の仕様としては最後発のものであり、型式番号には「3C」という別ナンバーが割り振られている。



RX-124 ガンダムTR-6[キャプランII]

TR-6にキャプランの両腕+ムームーパル・バインドーと、TR-1の脚部を装着した戦闘形態。パーツ評価試験用の形態であり特化した性能は持っていない。



RX-124 ガンダムTR-6[ヘイズルII]

TR-6の戦闘形態の多くは、TRシリーズや既存の機体を模倣したものも多く、そうした機体は元の機体変更に非公式に「II」をつけて呼称され、区別されていたようだ。



戦闘形態バリエーション

戦闘は運用目的の違いなどにより多数用意されたTR-6（および、TR-1、TR-5）の戦闘形態。一機当りのオーバースペック機から、一般兵対応機までが存在する。

RX-124 ガンダムTR-6[ハイザックII]

TR-6に通常の攻撃型MSの手足を取り付けた戦闘形態。TR-6をデチューンしたともいえるロースペックな形態であるが、一般のパイロットでも扱いやすくなっている。

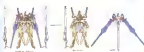


【フルドII】

6パーツ【フルドI】の姉妹機として開発された支援用TR-6シリーズの強化パーツとしての用途の他、単体のメカとしても運用が可能である。

RX-124 ガンダムTR-6[アドバンスド・ワンドウォートEX]

TR-6の高速戦闘形態に【フルドII】を装着した形態。【フルドII】の長盾により、【フライング】同様のエアリッドミニス（領域支配）機に分類される機体となる。



RX-124 ガンダムTR-6[ワンドウォート・ラー]

TR-6の素体に【フルドII】を2機装着した戦闘形態。小型の可変MSであるTR-6【ワンドウォート】素体本来の性能を最大限に引き出せるシンプルな戦闘形態といえる。



ORX-005 プランTR-5[アドバンスド・フライヤー]フルアーマー形態

TR-5[アドバンスド・フライヤー]に【フルドII】を装着したエアリッドミニス機。TR-6を付けば、ディケンズが保有する同クラス機で最強の機体といえる。



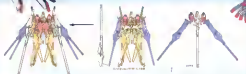
RX-121-3C ガンダムTR-1[ハイゼンスレイ]

TR-1【ハイゼンスレイ】に【フルドII】を2機装着した【ハイゼン・ラー】第二形態に相当する戦闘形態。TR-1シリーズの最終進化形ともいえる戦闘スタイルである。



RX-124 ガンダムTR-6[アドバンスド・ワンドウォートEX]クルーサー形態

TR-6の高速戦闘形態アドバンス仕様には巡航用ブースターを装着したクルーザー形態。長距離移動や大加速を必要とする場合、一撃離脱作戦で使用される。



RX-124 ガンダムTR-6[ワンドウォート]ギガンティック形態

TR-6にムラサメ研究所で開発された可変MA【MRX-008 サイコ・ガンダム】の手足を装着した戦闘形態。TR-6の試験運用形態の一つであり、運用用途は不明。



RX-124 ガンダムTR-6[ワンドウォート]拠点防衛形態

5基のウェポンカーゴと複数のメガ粒子砲を装着したTR-6の拠点防衛形態。高度な火絡撃システムにより大量の火器を制御して、多数の目標を同時に攻撃できる。TR-6は、TR-1、TR-5をも含めた一連の兵器システムとして開発された機体である。各機体をコアとして各種の強化パーツを装着することで多種多様な形態への換装が可能。



RX-124 ガンダムTR-6[アドバンスド・キハールII]

TR-6【キハールII】の両肩にウェポンカーゴを装着した戦闘形態。MA形態に変形してTR-6の拠点防衛形態の高耐久部分形成するための特殊な機体である。



ORX-005 ギャプラン TR-5 [アドバンスド・フライル]フルアーマー形態

本来、MS対MSといった「個」単位での戦闘を想定した「戦術級」兵器であったMS（およびMA）は、近年の飛躍的な技術の進歩により個体が保有する戦闘力が格段と向上した。その結果、戦闘のスケールが「個」単位から「域」単位へと拡大し、戦場全体に影響を及ぼす「戦術級」の機動兵器として「領域支配機（エアアドミナンス機）」というカテゴリーが誕生することとなった。[アドバンスド・フライル]フルアーマー形態は、系体となるエアアドミナンス機のフライルへさらに強化パーツを装した形態で、機動力・火力・運動性のバランスが高い次元で保たれており、圧倒的な戦闘力を持ったエアアドミナンス機の完成形といえる機体である。

[アドバンスド・フライル]フルアーマー形態は、TR-5機のパーツを装備されたフライルのアドバンスド形態に、[フルド]を装備したフライルの機体を骨とせしめる戦闘スタイルである。既存の戦術体系からは大きく逸脱した特殊な機体であるTR-5を駆け抜け、[アドバンスド・フライル]フルアーマー形態は戦術体系が保たれる同クラスの機動兵器の中でも最強の機体といえるだろう。

フライルの1号機と2号機は、機体の形状が若干異なる

ギャプランTR-5[フライルー] 最終戦仕様、完成



CAPLANT TR-5
[ADVANCED FRAYLOR]

ギャプランTR-5の最終戦仕様。
ノーマルの[フライルー]との差別化を図り[アドバンスド・フライルー]と称されている。
この機体をVANが製作。
各部の増設ユニットは軽量化のため、プラ板で製作されている。

ORX-005 ギャプラン TR-5 [アドバンスド・フライル]

領域支配 (Area Dominance) MAとして改修された[フライル]の最終戦仕様。機動力ならびに火力の大幅な強化がなされた。1号機と2号機で装備が異なっているが、これらの経歴は、当初すべてがマーフィーの機体に経歴される予定だった。しかし、状況の悪化によってTR-5の予備機が実験配備されることとなり、それがTR-6の実装までの間、エアリアル機として仮置かれたのである。それに応じてマーフィー機の強化改装をエアリアル機に分配し、両者の経歴が異なる仕様になったのである。もちろん、両者の経歴には互換性があるため、作戦に応じて換装されるというのが実験プランとして計画されていた。

ORX-005
GAPLANT TR-5
[ADVANCED FLAYR]

MSA-099 RICK D'AS [Sutner]

1/144 scale
scratch build
modeled by
Kait Nakamura



ガブリエル・ゾラ最終乗機 リック・ディアス[シュトゥッツァー]最終仕様をハイエンドで作る



●Mに形態時に機体上半身を覆っているのは、高速飛行形態で空母前部に突くように設計されている



●頭部・胸部・腕・足は、ワイヤーで固定されている。胴体上はジョイントタイプのモノアイカパーも存在するが、これはこの機体には使用されていない

ガブリエル・ゾラが最後に搭乗したリック・ディアスの最終仕様メタスの前部ユニットやスーパーガンダムから流されたデータをベースにした、サークル・キャンノンを3基装備。それにより可変MA並みの機動力と高い火力を獲得した機体である。このリック・ディアス(シュトゥッツァー)を中村圭が製作。作者が以前製作した初期版を基とし、新機種のハイエンドイラストに合わせた最終仕様として、本体以外のほぼ全てを新たに製作した。



高速飛行形態・メタスという、この機体には、近い形状の機体は、かつてシンクワ、青龍と両側にサークル・キャンノンを装備したもののほか、ヘイズルの高速飛行形態も参考にされているように。

MSA-C RICK Stutze



■ 肩関節部に配置されたウインチ・ユニットはビーム・ライフルを
はしめとする様々な武器を装備できる。これを使えば両手が離
がった状態でも射撃が可能である



■ このウインチ・ユニットは、ビーム・ライフルの大型のウインチ・ユニットに比べて、
可動範囲が広く、かつ、ビーム・ライフルの大型のウインチ・ユニットに比べて、
操作性が向上しています。



■ このウインチ・ユニットは、ビーム・ライフルの大型のウインチ・ユニットに比べて、
可動範囲が広く、かつ、ビーム・ライフルの大型のウインチ・ユニットに比べて、
操作性が向上しています。



■ このウインチ・ユニットは、ビーム・ライフルの大型のウインチ・ユニットに比べて、
可動範囲が広く、かつ、ビーム・ライフルの大型のウインチ・ユニットに比べて、
操作性が向上しています。

MSA-099

リック・ディアス[シュトゥツァー]

1/144スケールスクラッチビルド
製作・文 中村圭

どうも、中村です。さて今回は、リック・ディアス[シュトゥツァー]最終仕様です。前回の作例では、諸般の事情で間に合わせられなかったシールド・キャノン装備タイプ(しかも3枚も)です。

シリコンのベタベタ・トロドロが嫌いなので、通常なら3個以内の数なら複製をとらない主義なのですが、さすがにこの大きさと複雑なパーツ形状では、3個作るのは無謀だと判断し、複製作革を進めました。

しかし! ただでさえ複製経験が乏しいのに、でかい複雑な数が多い!! のトリプルバンチ。3セット分のパーツが揃う頃には、目の前に膨大な出来損ないパーツの山。もう、身も心もシリコンもボロボロです(笑)。「やってみればなんとかなる」というのは大間違いですね。正直、イベントに手流し複製でディーラー参加されている方は尊敬しますね。

さて、話は変わって、このシールド・キャノン。誰が見ても設定よりでかいです。なぜこうなったかという、私がもらった設定では、MS時と高速飛行形態ではシールドの大きさが異なっていたことが最大の理由です。ならば両形態用に2種のシールドを作るのがベストですが、前述したとおり、私のスキルとスケジュールの都合でその案は却下されました。

そうすると、どちらかに合わせることになるわけですが、最終的には見た目を優先して、1/100ネモに持たせても違和感がないほど大きくなりました(笑)。だって、飛行形態で機首(にあるシールド)が短いとかっこ悪いでしょ。では。

■PROFILE

なかりふさいだ。近況 この号が出る頃には新作アニメの放映が始まっていますが、巻の巻頭では「電脳コイル」が一般のお客にのびた(自分もオヤンがいない下僕が欲しいです) この巻は何か一巻頭目かな?

↑↑↑3部作との戦いで壊れたタータを修理して、エスコーが独自に開発したシールド・キャノン・シールド本体にジェネレーターを納め、ビーム・キャノンとしての運用も可能。ソラ星のネモにもこの装備が支給されている。



↑↑↑モビルスーツを兼ねたウィングバインダーは、高速飛行形態時には水平位置で固定され、機動機連動としても使用される。



↑このシールド・キャノンは、ウェポンラッチではなく、機首アームの先端にあるクロー・ユニットで胴や背中にもロックされる。そのためクローで保持できる場所ならばどこにでも展開できるようにしている。



FRONT VIEW

LEFT SIDE VIEW

FRONT VIEW

RX-121 GUNDAM TR-1

[HAZEL
(HAZEN-THLAY)]

1/144 scale scratch build
modeled by Kei Nakamura



最終決戦に間に合わなかった 幻の[ヘイズル] 最終強化プランを立体化する

T3部隊がこれまでに運用したTRシリーズのデータから完成した

“究極の汎用兵器”、ガンダムTR-6

本機は自身をコアとした、

豊富なオプション運用を可能とした機体であるだけでなく、

それらの詳細の多くは、他のTRシリーズへの開発まで想定された。

ひとつの兵器体系として完成するはずだった

しかし、戦局の悪化により、

TR-6本体は量産を待たずに、

T1機のみが試験的に投入されたのみとなり、

この構想は実現することなく

終戦を迎えることとなった。

今回、中村主が製作したヘイズルの

最終強化プラン(最終「ハイゼンズレイ」)をもとに

そうした構想の一端として計画されたものである。



※機体の外観上の変化は、ヘイズルの頭頂部から後部にかけてのヘッドカバーが変更されたのみ。センサーやコンピューターなどは最新のものに置き換えられている。作例ではキットの顔部をベースに改修を加えている。



↑ヘッドカバーは、機体の外観上に変化を加えるためのパーツ。センサーやコンピューターなどは最新のものに置き換えられている。作例ではキットの顔部をベースに改修を加えている。

RX-121
GUNDAM TR-1
[HAZEL ZENITH-LAM]



● 日本では、ほとんどの場合、このように「おはようございます」で始まる。これは、英語の「Good morning」に相当する。また、「おはようございます」は、朝だけでなく、昼間や夕方でも使える。ただし、夕方になると「おはようございます」は、少し不自然な感じがする。夕方になると「こんにちは」が一般的になる。また、夕方になると「おはようございます」は、少し不自然な感じがする。夕方になると「こんにちは」が一般的になる。また、夕方になると「おはようございます」は、少し不自然な感じがする。夕方になると「こんにちは」が一般的になる。

90



RX-121-2 GUNDAM TR-1 [HAZEL OWSIA] LAST SHOOTING version

non scale scratch build
modeled by Nanuito Furuka

ヘイズル・アウスの ラストシューティング仕様を再現する。

カールがエアルドとゾラを逆転する際に、ヘイズル・アウスラにビッグウィングキャノン改とファイバーIIを装備したものが、このラストシューティング仕様である。製作は古木誠人が担当。本来は特撮用のプロップとして製作されたものだが、そのまま使われるには惜しい精度で立体化されているため、ここでページを割いて撮影する。



各部のデザインや形状が、量産の量産機と異なるのは、製作時にトップデザインが存在しなかったため。



『ファイバーII』のやうに描き出すヘイズル・アウスラは『MS 特異現象』(『実録』)に登場する機体(『実録』)を参考にしたもの。立派な機体にベストなサイズであったこと、ジャストタイミングでヘイズル・アウスラがセットされていたことが撮影の決め手となった。

RX-124 TR-6 [WONDWART]

1/144 scale scratch build
modeled by Ryuj Sawayama

TR-6[ウインドウォート] 試作モデル、公開!!

今回は、クлинаップされる以前のラフ段階を元に、
特種CG用として製作された試作モデルを公開しよう。製作は空山竜司が担当。



最終は、これまでも小形ハートなどで知られているガンダムタイプとなるようだ。試作モデルの頭部はヘイズルをベースに製作されている。また、全身各部には、ドラムフレームや1/100ガスターボパーツなどこれまで作業が停っていたパーツが使用されており、その点からも試作が、形状確認用のものであることがわかる。

下は、P115の状態で使用された「ラフ」製作（空山製人）。こちらも、特撮用のプロップである。こうしてみると、「ウインドウォート」がオプションを必要とした点があったことがわかるだろう。なお、完成品の金（アンテナ（P））まで含めても10センチ強の小版モデルになっている。



1/144 scale scratch build 3面図

—この作例はラフ段階を元に製作されたもので、最終的な設定とは異なる場合があります。



RX-124 GUNDAM TR-6 [Wondwarr]

T3部隊がこれまでに運用したTRシリーズのデータから完成した「究極の汎用兵器」がガンダムTR-6である。小型MSをコアとし、様々なオプションを換装することで機体の用途そのものを変えるという、U.C.80年代においては類を見ない機動兵器となっている。それら多様なバリエーションのコアMSとなるガンダムTR-6〔ウーンドワート〕を空山竜司が製作。可変機構はオミットし、MSとしてのプロポーションを追求した。

ガンダムTR-6[ウインドウォート]を ハイエンド仕様で製作する



↑TR-6の顔は、機体ボットである「プリムローズ」が元祖したもの。かなり小ぶりな部分だが色調のバランスが絶妙にまとめられている。



60センチ
の機体は50センチの「プリムローズ」より一回り大きくなっている。



↑頭はMSのものとしては格調に際立つデザインとなっている。これは設定的には格調を想定してある。胸のものをウェポンベイとして換装しているため、作者ではその薄さを再現しつつ、ある程度まで胸を膨らませるようにした。



↑胸のコーンハートや左右のバルカンポッドで覆われているが、機体の基本はガンダムタイプとなっている。作者でもできるだけガンダムらしさを出しつつ、各部の型ハートも確認して高品質にした。



↑このスケールの「ヘイズル」(製作 松井隆之)との比較。作者によればTR-6は少し細い機体にしたそうなので、全体的にはおまけの機体になってしまったが、それでも機体感がいいくらいにはなっていると思う。

RX-124 GUNDAM TR-6 [Wordwart]

..modeled by Ryuji Soryama



●T77-06の専用武装であるシールド・キケンも製作 腹部にある特殊砲大型クローとしての肩頭機構は省略したが、ディテール再現には気を配り「動きそう」なパーツ構成を心がけて造形した。



T3部隊、最強の“ガンダム”完成!!

T3部隊の秘密のガンダムとして開発されたTR-6(フーンダウォート)は、非常に拡張性の高い機体とされており、「インレ」と呼ばれる巨大なMA形態で機体、多様な運用方法が提供されていた。本機は単独で戦局に多大な影響を与えるほどの能力を有しており、実際にコロニーレーザー攻防戦では、上級部隊から「インレ」の組織投入が発令されている。しかし、ベデルセンによる「TR-6破壊命令」が下されたことで、エリアルドは「インレ」ユニットを換装しない状態のTR-6で出撃する。機体に高機動ユニットと、豊富な武装を装備した本機は「アドバンスド フーンダウォート」と呼称された。この機体は船水壱が製作、P94に搭載された作例(制作:金山竜司)の複製パーツをベースに、ほぼすべてのパーツを新規で作成している。なお、TR-6に換装されなかった「インレ」ユニットの大半は、「ハイダル」に換装された「ファイバーII」を除き、アスワンの状況と運命をともにしている。

RX-134

GUNDAM TR-6

ADVANCED WONDOWART EXI



↑ 腰のフロントアーマーも素体には存在しないブロックなので新造。中央のユニットは素体側面のパーツと同じもので、磁気メガ粒子銃を内蔵したものになっている。



↑ 設定ではTR-8の素体の前に装着される増設装甲だが、作例では素体を基準に新規に作り直してある。



↑ 頭部はTR-8の素体（以下、素体）を基に、ヘルメット・バーツを新造。より“ガンダム”らしく見えるように、設定にあるデジカは外してある。



↑ 肘は素体のパーツをほぼそのまま使用。肩アーマーは新規に造形したもので、ビーム・キャノンの新造はコンパクトにまとめられている。



↑ 腰の大きなウイングはリア・アーマーのデザインを参考に、新規に造形したもので、設定ではTR-8の素体の前に装着される増設装甲だが、作例では素体を基準に新規に作り直してある。



↑ 上半身側面写真。ドラムフレームと肘甲の位置がよくわかる。肩関節は市販のパーツを使って動かせるようにした。



RX-124-3C ガンダム TR-6 [アドバンスド ウンドウォートEX]

ノンスケール スクラッチビルド
製作: 文 敏雄

長きにわたって連載してきた A.O.Z. もいよいよ最終回。僕もこの企画には作例製作で初期の頃から関わらせて頂いていたので、終わりとともにやはり寂しいものを感じます。

昔では、藤岡氏の描く独特なデザインに対して多くの意見が交わされていたようですが、僕はあのハイテクな感じは結構好きでした。作るの大変でしたが(笑)。

さて作例ですが、これまでの流れからソラリュウ君の作例を期待していた人が多かったと思うのですが、諸事情により僕が担当となりました。ソラリュウファンの皆さんごめんなさい。本誌2007年9月号で彼が作ったTR-6の素体との統一感・時間短縮を考慮、キャラホビ2007でも販売された彼の作例の複製品を提供してもらい、それをベースにして製作しました。背骨にあたるドラムフレームや股間のフンドシ部・前腕・ブースターボット・ライフル・太ももなどが比較的那のままの形状で使った部分です。

その他の自作部分は、基本的に直線で構成されたデザインなので大半をプラ板の箱組みで製作。頭部・胸部・肩アーマーの前後の板は形状忠実にしづらかったので、ポリバテの盛り削りを繰り返して、ベストと思われる形状を探りながら形を出しました。

編集部からの説明によれば、A.O.Z. 本編においてエリアルド君が出撃したときの本来の姿は、両腕に装備したフルドIIにビーム・キャノンを取り下げた“アドバンスEX仕様”であるとのことだったので、フルドIIのキットからフルドIIを流用。しかしキットのものでは横幅が広すぎて納まりが悪かったので、真ん中で切断し1.5ミリほど縮めました。

ビーム・キャノンは本誌2007年1月号の付録のものを使用してロングバルタイプに改造しました。

連載当初から存在が示唆されていた最後のガンダムだけに、若干のプレッシャーを感じながらの製作となりましたがいかがでしょうか。それではまた。

■PROFILE

いみじくも、本誌最盛期の機可動モデル、点足。先日久し以前に卒業するってタイズニューランドへ行ってきた。ウッティと一緒にご覧もって帰るもなかなか満腹でした。



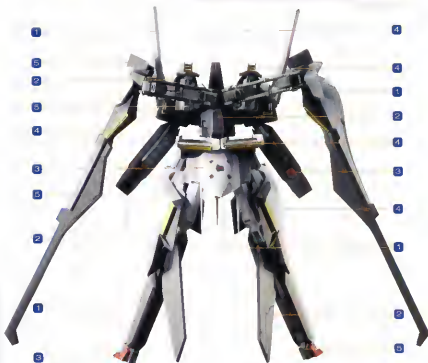
↑肩のビーム・キャノンは肩アーマー裏面のフレームに接続されており、フレキシブルな動きをすることが可能



↑直線的なラインでまとめられたヒザ下のユニットは、肩といよりは推進器であり、MA形態の細く格闘用クローにも変形する。肩面から見える本体のヒザが180度以上に折れ上げられているのが確認できる。



↑シールド・キャノン(上)は、素体のものをベースにバルド部分を延長した。ビーム・キャノンは本誌2007年1月号付録のバーンをベースに、バルド部分と機體重量を調整して対応。



カラーリングデータ

1 ホワイト 1番・ホワイト 90%+308番・グレーFS36375 10%+67番・ハーフタタシ
2 ダークブルー 71番・レッドナイトブルー 60%+80番
3 コバルトブルー 20%+1番・ホワイト 15%+68番 モンブラン 5%
4 1番 58番・モンブラン 80%+1番・ホワイト 10%
5 エイロー 58番 黄褐色 90%+1番・ホワイト 10%
6 グレー 308番・グレーFS36270 90%+13番・ニューラルグレー 30%+1番・ホワイト 20%
※すべてGSIクレオスの「Mr.カラー」

電撃ホビーマガジンスペシャル
ADVANCE OF Z
 アドバンス・オブ・Z
 ティターンズの戦のもとに
 Vol.6

STAFF

編集:電撃ホビーマガジン編集部
 編集協力:片岡大輔 (アークライト)
 アートディレクター:CREATIVE STATION BEE-PEE (児玉真吾)
 表紙・デザイン/DTP:CREATIVE STATION BEE-PEE (永田敏之、SOKURA)

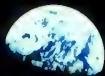
撮影:L-CRAFT
 協力:株式会社サンライズ・ライン事業部
 株式会社/バンダイ・ホビー事業部

発行:2008年2月15日 初版発行

発行人:渡部雅人
 編集人:佐藤忠博
 発行所:株式会社メディアワークス
 〒101-8305 東京都千代田区神田駿河台1-8 東京YWCA会館
 電話 03-5281-5236 (編集)

発売元:株式会社角川グループパブリッシング
 〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
 電話 03-3238-8528 (営業)

印刷・製本:凸版印刷株式会社



「アンケートご協力のお礼」

本書をお読みになってどんな感想をお持ちになりましたか? アンケートにご協力ください。以下のURLまたはQRコード(携帯方用版)で、弊社アンケートページへとアクセスできます。アンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で年1回100名の方に記念品を贈ります。なお、当選者の発表は記念品の発送をもって代えさせていただきます。

<http://www.mediaworks.co.jp/special/HOBBY/mook/>

※ご記入いただいたお客様の個人情報は、記念品の発送に利用するほか、当社グループ各社の商品やサービスのご案内などに利用させていただきます。また、個人情報を適切に取り扱い、厳格な管理を施した上で、当社グループ各社の商品やサービス向上に役立てるほか、第三者に提供することがあります。



4C85

※本書の全部または一部を無断で複製(コピー)することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。本書からの転写を希望される場合、日本複写センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取替えします。

ISBN978-4-8402-4085-7 C9476
 補注64884-11





復活の白きヘイズル

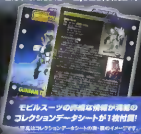


「モビルスーツインアクション!!」にヘイズル改がラインナップ。
関節可動のアクションフィギュアに、ビーム・ライフル等、多彩な武器が付属。
3枚のシールド・ブースターを装備して「高機動形態」を再現可能。

ADVANCE OF
ティターンズの翼のもとに



「モビルスーツインアクション!!」
ガンダムTR-1 [ヘイズル改]
2月中旬発売予定 2,825円(税込み)



モビルスーツの多彩な表情が満載の
・コレクションデータシートが1枚付属!
※本品はコレクションアークシートとのセットで販売されます。



MS IN ACTION Ⅱの情報は公式ホームページで
<http://www.tamashii.jp/>

※価格はメーカー希望小売価格(税別)です。※写真は想像の図と一部異なる場合がございます。※画像はイメージです。
※この広告は2009年2月現在のものです。※一部店舗では発売日が異なる場合がございます。

©劇画・サンライズ ●企画の総責任、販売の総責任などを担当して販売。
株式会社バンダイ ホイストー事業部 04-7148-0374
〒111-8081 東京都台東区駒形 1-4-8 (東京都) 04-7148-0371
<http://www.bandai.co.jp> (国産品) 06-6375-5010



まるごと1冊 ガンダム!!



機動戦士ガンダム00
機動戦士ガンダムUC
BB戦士 三国伝
機動戦士ガンダム

ガンダム

ザ・セレクション
ガンダム00 スペシャル

絶賛
発売中!!

ガンダムのアニメやグッズの最新情報をぎゅっと凝縮した「ガンダム ザ・セレクション」! 巻頭特集では今もとても熱い 機動戦士ガンダム00 作品紹介のほか、ガンプラをはじめとしてあらゆる「00」グッズを一挙に紹介! さらに今注目の 機動戦士ガンダムUC BB戦士 三国伝についてもクロースアップ。この1冊で最新ガンダムの全てが分かる、必見のオールガンダムマガジン!!

ガンダム ザ・セレクション
約100ページ A4変型判
発売中 価格:690円(税込)



最終MS、ガンダムTR-6[ウインドウォート]登場。マーフィ小隊の戦いがここに終結!!

電撃ホビーマガジンスペシャル

THE FLAG OF TITANS Vol.6 DENGKI HOBBY MAGAZINE SPECIAL

ADVANCE OF Z

アドバンス・オブ・Z

～ティターンズの旗のもとに～

ADVANCE OF
ティターンズの旗のもとに
Vol. 6





ADVANCE OF Z
THE FLAG OF TITANS Vol.6



9784840240857



1929476008404

ISBN978-4-8402-4085-7
C9476 ¥840E

雑誌 64884-11

 **MediaWorks**

発行●メディアワークス

©Media Works 2008

印刷 凸版印刷株式会社 Printed in Japan

の原典・サンライズ

定価： **本体840円**

※消費税が別に加算されます



DEBUT
MARK
KAIJU
GAKUEN
MONSTER
SCHOOL
THE
ANIME
SERIES
IS
NOW
ON
TV
AND
DVD
RELEASED
ON
JUNE
1ST
2011
KAIJU
GAKUEN
MONSTER
SCHOOL
THE
ANIME
SERIES
IS
NOW
ON
TV
AND
DVD
RELEASED
ON
JUNE
1ST
2011